
逃走中 Mix M@ster! ～グレイト・エスケーパー計画を阻止せよ！～

午後零P

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逃走中 M i x M @ s t e r ! 〽グレイト・エスケーパー計画を阻止せよ! 〽

【Nコード】

N 5 0 3 7 W

【作者名】

午後零P

【あらすじ】

歴代の逃走成功者達のクローンを使って実行される謎の『グレイト・エスケーパー計画』。
それを企てる者と、それを阻止するために立ち上がった逃走中の開発者・月村サトシと二人の助手の戦いに逃走者達が巻き込まれる。
果たして、ハンターから120分間を逃げ切り、高額賞金を手にする者は現れるのか!?

プロローグ（前書き）

どうも、午後零Pことイブニングゼロです。
私の逃走中第三弾をお届けします。
少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

プロローグ

ここは大海原の真ん中。

その上を進む船の上に、その人影はあった。

海をバックに赤とピンクの衣装で歌い踊る二人の少女。

その歌が終わってすぐに拍手があがった。

春香

「みんな、ありがとう！」

まどか

「大好きです！」

その二人、天海春香と鹿目まどかは目の前に並ぶ仲間達に笑顔を見せた。

律子

「才能あるわね、あの子」

千早

「ええ」

雪歩

「わあ……………」

愛

「最高でしたよー！（超大声）」

絵理

「ひうつ！？」

涼

「耳が……………」

冬馬

「絶対黒井のおっさんに狙われるな、こりゃ」

ほむら

「まどか…………綺麗……………」

マミ

「いい歌だったわ……………」

さやか

「ですね」

杏子

「ホントいい歌だ……ボリボリ（クッキーを食べる）」

最後の最後に魔法少女となったまどかの願いによって『ワルプルギスの夜』が倒され、新たな理^{ことわり}が生まれた世界。

本来の歴史では世界を構成する概念そのものとなって消滅する筈だったまどかはこの時間軸では魔法少女として健在である。

だが、最も本来の歴史からかけ離れているのは……

？

「最高だったよ！」

まどか

「うん！ありがとう、『キュウベえ』！」

ほむら

「アイドルというものを理解できるとは、本当に人間臭くなったわね……」

キュウベえ？

「ボクは本当の事を言っているだけだよ？」

まどかの願いのせいか、少女達の物語の黒幕であった『インキュベーター』・通称キュウベえが人間の少年のような姿になっている事である。

今の彼？は姿だけでなく心まで人間っぽくなり、かつての面影はインキュベーターの姿の耳？のようなツインテールしかない。

因みに、今は『鹿目九兵衛』という名前で鹿目家の養子という事になっている。

杏子

「同人誌かい！」

マミ

（しかし、これが本当にキュウベえなのね……………）

ほむら

（いくら人間として生活するためだからってこの当て字はちょっと……………）

※本作では便箋上、表記は『キュウベえ』とする。

その時、春香ともまどかとも関係のない一人の人物が興奮しながら二人に近づく。

？

「ムッハー！いい歌じゃないのー！」

？

「おいおい……少しは落ち着いたらどうなんだ」

知る人ぞ知るSOS団の団長・涼宮ハルヒだ。

突っ込みを入れたのは彼女にいつも振り回される男・通称キョン。

ハルヒ

「そこらへんの安っぽいアイドルよりすっごい良かった！マジよ！あ、まどかちゃんだっけ？いっそのことアンタも765プロに入っちゃいなさい！売れるわよきつと！」

まどか

「ええ~~~~~!？」

ほむら

「な……まどかがアイドルに!？」

さやか

「おお~！」

まどか

「え、ちょ!？ほむらちゃんにさやかちゃんまで!？」

マミ

「鹿目さんの歌、もっと聞きたいわ」

杏子

「サインもらいに行ってやるし、ライブも欠かさず行くからな〜！」

キュウベえ

「ボクと契約してアイドルになろうよ！」

まどか

「ちょっ、ちょっと待って〜！（逃走）」

律子

「あら、どこへ行くのかしら？765プロはいつでもあなたを待ってるわよ〜！」

キヨン

「やれやれ」

逃走するまどかは三人の人物の横を通り過ぎる。

？

「今のって……………」

？

「お、噂をすれば。彼女が鹿目まどかですね……………」

？

「……………」

SOS団メンバーにして未来人の朝比奈みくる、超能力者の古泉一樹、キュウベえとは別の地球外生命体(?)の長門有希だ。

魔法少女やインキュベーター、まどかによる世界改変を認識しており、その話をしていたらしい。

この三人が認識しているものはもう一つあった。

古泉

「あの人達も地球に起きた異変に気づいていたようですが、彼女達が駆け付けたのは鹿目まどかによって全てが終わった後でしたね」

それは次元世界の平和を守る『時空管理局』の存在。

古泉の視線の先に居る七人もそのメンバーである。

なのは

「後で春香ちゃんのサインもらいに行こうかな」

エリオ

「あ、僕も………」

はやて

「それにしても、船旅ってええなあ………」

キャラ

「そうですね」

フェイト

「あ、スバルが戻ってきたみたい」

ティアナ

「もう歌は終わっちゃったわよ」

スバル

「ええ〜!? せっかくみんなでアイス食べながら見ようと思ったのに〜!」

『ジェイル・スカリエツィ事件』を解決した『機動六課』のメンバー達もこの船旅を楽しんでいた。

しかし、この26人には別の目的があった。

春香

「いよいよだ……」

ハルヒ

「やるからには当然逃げ切るわよ〜!」

まどか

(き、緊張するう……)

なのは

「久しぶりの休みだし、思い切り楽しまないと！」

船はもうすぐ港へ到着しようとしている。

先を見据える26人の手には『逃走中』の招待状が握られていた。

一方、ここは今回の舞台となる場所。

逃走中の開発者・月村サトシとその助手である千早と雪歩のクロール・フェニスとアイリスはその場所にある建物を見ている。

アイリス

「ここで私達と同じ、歴代の逃走成功者達のクローンが作られている……」

フェニス

「本当にやるんですか？」

月村

「ああ。ここがゲームの舞台になればあちらも迂闊に手出しはでき

ない筈だ。何かが起きる前にこの地下にあるクローン製造工場を制圧する」

そして月村は手に持つ端末を操作する。

月村

「さあ、ゲームをしよう」

プロローグ（後書き）

次回は逃走者紹介です。

逃走者紹介（前書き）

今回の逃走者達です。

逃走者紹介

『THE IDOLM@STER』からの参加者

いわずとしたアイドルプロデューサーゲームからの参戦。

今回は前回・前々回の逃走成功者を含めた8人が賞金のために逃げ回る！

天海春香

Haruka Amami

前回は感想を頂いたDJUNさんいわく『マヌケな確保』だった。行動的であるが、たまに転んだりするのが玉にキズ。

如月千早

Chihaya Kisaragi

前回は後半戦にて、裏切り者の通報によって確保。

見た目や静かな印象の裏には、逃走成功という今回の目標への強い意思がある。

萩原雪歩

Yukihiko Hagihara

前回はミッション失敗により10体のハンターに追われて捕まり、

敗者復活後に裏切り者の通報で確保。
最近ハンターに対する耐性がつき始めている。

秋月律子

＼ R i t u k o A k i z u k i 〵

前回の裏切り者。

通報によって賞金ボーナスを100万円にまで釣り上げるも、あえなく撃沈。

その戦略性はテレンス・リーにも引けをとらない。

日高愛

＼ A i H i d a k a 〵

前回は裏切り者の通報で確保↓復活↓残り1分で無念の確保。
とにかくハンター以上に神出鬼没で、行動力は26人の中でナンバーワン。

水谷絵理

＼ E r i M i z u t a n i 〵

前回は裏切り者の通報で確保。

最近はある程度自分から動くようになってきている。

一部のまどマギファンから『ハコの魔女』の元ネタといわれている。

秋月涼

＼ Ryo Akizuki ＼

前回の逃走成功者。

運動能力や運があるわけではないが、そこは根性でカバーする。

天ヶ瀬冬馬

＼ Tōma Amagase ＼

前回は通報の巻き添えで確保され、復活後は終盤で確保。

ミッションは全て参加する意欲があり、足の速さはそこそこ。

＼ 『魔法少女まどか☆マギカ』からの参加者 ＼

最近魔法少女人気を『リリカルなのは』シリーズから奪いつつある作品から6人が参戦。

オリジナル設定として、プロローグの通りまどか含む魔法少女5人が健在&QBがほぼ人間化している。

また、キャラ崩壊が最も激しいと思われる。

鹿目まどか

＼ Madoka Kaname ＼

原作では世界を包む概念そのものとなって消滅するというあまりにもぶっ飛んだ最期を遂げているが、本作では世界改変後も健在。足は普通だが行動力があり、積極的に動き回る。

暁美ほむら

＼Homura Akemi＼

まどかを救うために何度も時間を遡ってきた、裏の主人公といえる存在。

基本的に行動的でない逃走者とは距離を置く。

巴ミミ

＼Mami Tomoe＼

『ティロ・ファイナール』と『マミる』でお馴染みの人。

歴戦の魔女少女としての経験故に身体能力も判断力も高めたが、やっぱりハンターは怖い。

美樹さやか

＼Sayaka Miki＼

原作では魔女化したり改変後の世界でも結局消滅したりと、不憫な子。

まどか勢で最も足が速い。

佐倉杏子

＼Kyoko Sakura＼

「独りぼっちは、寂しいもんな」の人。

食べ物を買うために貪欲かつ確実に賞金を狙う。

キュウベえ

＼ Kyubey 〵

原作ではマスコットのふりをした全ての元凶だが、本作では前述の通り身も心も人間そのもの。

インキュベーター時代の食えない所も健在で、基本的にマイペース。

＼ 『涼宮ハルヒの憂鬱』 からの参加者 〵

根強い人気を誇る日常 or 非日常系ライトノベル作品から SOS 団の 5 人が参戦。

果たして、どんな逃走劇を見せてくれるのか。

涼宮ハルヒ

＼ Haruhi Suzumiya 〵

SOS 団の団長にして作品のヒロイン。

実は本人も知らないといんでもない秘密が……

最近はやや抑えめだが傍若無人で唯我独尊、それでいて身体能力も非常に高い。

キョン

＼ Kyon 〵

主人公でツッコミ担当。
SOS団を含めた癖者揃いの逃走者の中では足も戦略性も運もいたって普通。

朝比奈みくる

＼Mikuru Asahina＼

ハルヒの観察にやってきた未来人だが、詳しい事は禁則事項。
初期の雪歩以上にハンターにビビりまくり。

古泉一樹

＼Ituki Koizumi＼

ハルヒの観察に来た超能力者の組織の一員。
素の足の速さはそこそこでミッションへの参加意欲もある。

長門有希

＼Yuki Nagato＼

みくるや古泉と同じくハルヒの観察にやってきた、キュウベえとは全く別物の地球外生命体。正式名称は長いので省略。
ゲームに参加するにあたり、身体能力を普通の人間の女子高生レベルに調整しているらしい。

＼『魔法少女リリカルなのはStrikers』からの参加者＼

作者の長編二次創作作品の原作から隊長トリオとフォワード陣の計7人が参戦。

一癖も二癖もある注目の逃走者達だ。

なお、まどか勢となのは勢は変身なしでの参加となる。

高町なのは

＼Nanoha Takamachi＼

ご存知我等がエース・オブ・エース。

ミッションに対しては積極的だが、幼少時に運動が苦手だった事が祟って変身なしでの身体能力はそんなに高くない。

フェイト・T・ハラウオン

＼Fate T. Harlaown＼

なのはと同等の実力を持つ魔導師。素の状態での身体能力はなのはより上で、ミッションにも積極的に挑む。

八神はやて

＼Hayate Yagami＼

最強ともいえる力を持つ最後の夜天の主。

なのは同様、行動力はあるが足はあまり速くない。

スバル・ナカジマ

＼ Subaru Nakajima ＼

機動六課のムードメーカー的存在。

負けん気が強く、危険を省みずに行動することもしばしば。

中の人繋がりか、ほむらとは何かと息が合う。

ティアナ・ランスター

＼ Teana Lanster ＼

フォワード陣のまとめ役っぽい立ち位置。

足が速く洞察力もあるが、警戒心が強いために動き回るのは苦手。

エリオ・モンディアル

＼ Erio Mondial ＼

紅き幼き槍使い。

今回の逃走者は自分を含めて男が6人しかいないために気合は十分。それに恥じない行動力を持つ。

キャロ・ル・ルシエ

＼ Caro Lushie ＼

最年少の飛竜使い。

フルバック担当のため足には期待できないが、行動力はそれなりにある。

—
以上、
26
名

逃走者紹介（後書き）

次回はいよいよゲームスタートになります。

ゲームスタート! (前書き)

いよいよ今回からゲームスタートです。

全く関係ありませんが、876組と木星が正式にアニマスに登場しました。

でも涼は女装のまま………

ゲームスタート!

月村が持つ端末にある小さな画面。

逃走者達が港から今回の逃走エリアに到着するのが映し出されたのを確認すると、月村は何かの操作をする。

すると、エリア内のどこかにハンターが入った四つのボックスが転送された。

そしてゲーム開始前、安全のためのヘッドギア・肘あて・膝あてとゲームタイマーを装着し、エリアに散らばる26人の逃走者達。

今回はオープニングゲームを行わず、逃走者達がエリア内に散らばった状態で始まる。

ティアナ

「隠れるとしたらここがいいかな……………」

古泉

「ハンターはどこから来るのでしょうか……………」

涼

「目指すは二連覇だ！」

マミ

「始まる前からもう何もかもが怖い……………」

果たして、逃げ切る者は現れるのか！？

10

9

3

4

5

6

7

8

2

1

残り時間 120..00

賞金 ¥0

ブシューッ！ガシャン！

ドドドドドドド……

4体のハンターが解放たれ、ゲームが始まった！

ハルヒ

「ふう、始まったわ！」

さやか

「こ、これからどうしよう………」

愛

「どこからでも来い！」

フェイト

「みんな、大丈夫かな………」

26人の逃走者を追うハンターは、4体。

彼等は驚異的な瞬発力と持久力を持ち、視界に入った逃走者を見失うまで追い続ける。

逃げ切るのは容易ではない。

また、逃げる逃走者達の行動も三者三様。

律子

「こっちにハンターは……居ないようね」

エリアの地理を把握すべく、動き回る者。

エリオ

「いざって時に逃げ道が分からないと辛いな……………」

逃走の戦略を立てる者。

杏子

「やっぱり確実にお金をゲットするには引き際を見極めないとな」

ゲーム中常に加え続ける賞金に心躍る者。

エリア内は一分と経たずして、恐怖と欲望に支配された。

従業員

「どうぞ」

みくる

「あ、ありがとうございます……………」

従業員の女性から飲み物をもらうみる。

今回のエリアはたくさんの客で賑わうとある施設なのである。

みる

「テレビで見るよりずっと恐いですう………」

いきなりビビりまくる女。

一方、この近くでは……

ほむら

「ハンターは視界に入った逃走者だけを追うのよね。いくら足が速
かろうと、見つからなければどうという事はないわ」

まずは冷静に辺りを見回すほむら。

しかし、その後方にハンター………

ほむら

「人混みの中でいきなり会うような事があればまず助からないわね
………」

ハンター

「!」

見つかった…………

ほむら

「え? あれってハンター!?」

ほむらもハンターに気づき、人混みの隙間から逃げていく。

彼女が逃げた先には……

みくる

「ふえ!?!」

ハンターに追われるほむらを見つけたみくるは一目散に逃げ始める。

しかし…………

みくる

「いやっ! 待って!」

そのままほむらがみくるを追い抜いた。

ハンター

「LOCK ON MIKURU」

慌ててスピードを上げるも、ほむらに追い抜かれた時にはもうすでにハンターとの距離は6メートルにまで縮まっていた。

みくる

「いゝやゝ!」

ポント

「朝比奈みくる 確保 残り25人」

残り時間 118.41

賞金 ¥23700

みくる

「ふええ〜……………恐かったよお〜……………キョ〜ンく〜ん……………」

ほむら

「危ない危ない。確実に捕まるかと思ったわ。今みたいな状況じゃ他の逃走者を盾にしないと逃げれないわね……………」

ピリリッピリリッ

キョーン

「確保情報か！」

確保情報は支給された携帯電話を通じて全ての逃走者に伝えられる。

冬馬

「『ショッピングエリア中心部にて』……………」

はやて

「みくるちゃん捕まってもうた……………」

キュウベえ

「『朝比奈みくる確保、残り25人』……………」

ハンターから逃げた時間に応じて、賞金を獲得できる。それが、

R u n F o r

M o n e y

逃 走 中

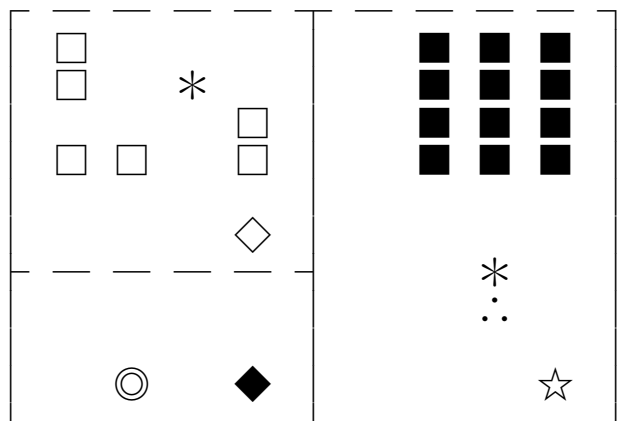
逃走劇の舞台は、『トワイライト・ガーデン』。

豊かな自然に包まれた巨大庭園が特長の日本有数の観光スポットで

ある。

前述の巨大庭園、お祭りの出店のようなショッピングエリア、観光客の車や従業員のトレーラーが並ぶ駐車場エリア、エリア北西を占める宮殿のような美術館で構成され、広さは東京ドーム約2.5個分に相当する。

下の図が逃走エリアの簡易地図である。



◎…牢獄 □…出店

…噴水 *…自首電話

この地図の☆のエリアが巨大庭園のあるガーデンエリア。

◇のエリアがお土産屋などが立ち並ぶショッピングエリア。

◆が牢獄が設置された駐車場エリア。

そしてガーデンエリア西部の■■■が連なっているのが美術館である。

25人の逃走者は、このエリア内を120分間逃げ回る。

冬馬

「やっぱこの金が増えるドキドキがたまんねーぜ」

絵理

「もう2万円……越えてる？」

賞金は1秒300円ずつ上昇。見事120分間を逃げ切れれば、最高賞金216万円を獲得できる！

杏子

「うふふふ……待ってるからなく電話ちゃん」

このゲームは自首、つまり途中でゲームから降りる事もできる。

エリア内の二カ所に設置された自首用電話で申告すれば、その時点での賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

但し、エリア内には4体のハンター。捕まれば即失格、賞金は0！

アイドル達だけでなく、新たな参加者をも恐怖と欲望の渦へと誘う一獲千金のゲームは、まだ始まったばかり。

果たして、ハンターの追跡から120分間逃げ切り、高額賞金を手にする者は現れるのか！？

ゲームスタート! (後書き)

今回は携帯で使える記号を組み合わせて簡単な逃走エリアの地図を作ってみました。

果たして、パソコンでちゃんと表示されるのか……

それぞれの行動（前書き）

みくるの確保から始まった逃走劇。
最初のミッションは………これだ！

それぞれの行動

残り時間 117..30
賞金 ￥45000

ここはエリア北西の美術館の内部。
この中も逃走エリアとして進入が可能だ。

まどか
「ハンターってこっちにも入ってくるよねきっと……………」

動き回っているうちに美術館へ入っていたまどか。

その時、まどかの背後から……………

冬馬
「よう、鹿目」

まどか
「わ……………!」

冬馬

「ハンターじゃねえよ。俺だって」

いつもの黒い衣装での参加であるため、まどかにハンターと間違えられた冬馬。

冬馬

「ちっ……だから今回は私服で参加しようかなって思ったんだよな。俺ってグラサンかけたらほぼハンターそのものじゃねーか」

まどか

「に、似てるかも………そういえば冬馬さんは賞金どれくらいまで狙ってますか？」

冬馬

「俺は金も欲しいけどまずは逃げ切る事を考えるぜ」

まどか

「あー、やっぱり……私も逃げ切りを狙ってます！」

冬馬

「そうか。頑張りな」

一方、こちらは博物館の外の茂みの近く。

ティアナ

「いい隠れ場所を見つけた……………」

すぐさま茂みに隠れる、茜色のガンスリンガーガール。

ティアナ

「よし。とりあえず今は隠れて、ミッション始まったら動く。この作戦でいってみようかな？」

このゲームでは珍しい戦略だ……………

ティアナ

「……………ん？」

遠くにハンターを見つけた。

ハンターはこちらに気づいていないようだ。

そのハンターが向かう先には……………

マミ

「こっちから来たら……………こっち！で、あっちから来たら……………こっち！」

ハンターに見つかった時のシミュレーションをしている巴マミ。

その近くに…………

マミ

「あら、秋月さん」

律子

「あ、どうもどうも」

冬馬と同じく、黒い衣装……というかスーツで参戦の、前回の裏切り者。

マミ

「テレビで見ましたよ、以前の裏切りっぷりは」

律子

「お陰で最近ドラマの犯人役や悪女役のオファーが増えて増えて」

マミ

「ああ、そういえばこの前の2時間ドラマの犯人役してましたね」

律子

「ええ。この前なんて『悪イリツチャンモカワイイデスヨ』っていうファンレター来ちゃったし、もうどうしようかと／＼／＼」

話のはずむ二人。

その時、ティアナが見たハンターが……

ハンター

「！」

マミ

「できれば無事にフィナーレを迎えたいわ」

律子

「そうですね……ってハンター来た！」

マミ

「んなっ!？」

気づいた二人に迫るハンターはマミに狙いを定めた。

マミ

「何で!？」

ハンター

「LOCK ON MAMI」

黄色の髪を揺らしながら必死に走り続けるマミ。
しかし、少しずつ距離は縮まっていく。

マミ

「いやあああっ！ああっ！」

ポンッ

「巴マミ 確保 残り24人」

残り時間 115..53

賞金 ￥74100

マミ

「うう………私とした事が………ちょっと話してただけなのに私だけ一足先にファイナールになっちゃった………」

『お菓子の魔女』の時のような、呆気ない幕切れだ……

さやか

「確保情報……うわー！ マミさん！」

キャロ

「『ガーデンエリア・博物館付近にてバミ確保』……」

律子

「あゝ、また悪女役のオファーが増える……」

その頃、駐車場では……

千早

「やっぱり、何度参加しても恐いわね……」

絵理

「……この待受画面……ちょっと怖い？」

停まっている別々のトラックに隠れる千早と絵理。

千早

「昔、角を曲がろうとした時すぐ目の前にハンター来て捕まったのよね……。曲がり角とかこういう物影も油断できないわ」

前々回は敗者復活の末に逃走成功の千早。

しかし、復活前の確保は軽いトラウマになっているようだ。

その時、1体のハンターがこちらへ歩いて来る。

トラックが影になり、千早もハンターも気づいていない。

絵理

「どうしようかな……。動こうかな……。ひうつ!？」

ハンター

「!」

ハンターはトラックを挟んだ向こう側に絵理を見つけ、確保へ向かう。

千早

「今のうちに移動を………」

ハンターに気づかないままトラックから離れようとする千早。

しかし、ハンターが急接近。

そしてハンターが千早が居たトラックの近くを通り過ぎようとした
時……………

ハンター

「LOCK ON CHIHAYA」

千早

「!？」

千早が視界に入ってしまった……………

千早

「きゃあああああ！」

ポンッ

「如月千早 確保 残り23人」

残り時間 115..04

賞金 ￥88800

千早

「何でこんな……曲がり角からいきなり来たり通報されたり……
捕まり方がいつもいつもロクなもんじゃないわ……」

スバル

「なのはさん！」

なのは

「確かに今千早ちゃんの声が！」

千早の甲高い悲鳴はショッピングエリアにも聞こえていた。

ピリリッピリリッ

なのは

「確保情報……やっぱり捕まっちゃったんだ！」

春香

「あゝ！千早ちゃん捕まっちゃったゝ！」

長門

「残りは……23人」

……

その頃、直接エリア内に来ている月村達を見下ろすある存在があった。

？

「さて、どう出るか……」

どこかで見たような顔の存在は眩く。

アイリス

「しかし、あの地下にあるクローンを使って何をするつもりなのでしょうか」

月村

「今までの調べではそこまでは分からなかった。だが、このゲームを潰すと同時にこの過去の時代で何かとんでもない事をしようとしているのは間違いない」

そう言いつつ端末を取り出す。

月村

「地下制圧用ハンターの到着はまだか？」

フェニス

「まだ時間がかかりそうです」

月村

「ならばミッションも兼ねて時間稼ぎをするでしょう。さすがにあちらもゲーム中に逃走者に手を出すような事はないだろうから、逃走者を動き回らせていた方が都合がいい」

そう言う月村の端末には、逃走者達の位置を示すGPS地図が表示されていた。

.....

残り時間	1 1 3 .. 0 0
賞金	¥ 1 2 6 0 0 0

ピリリッピリリッ

フェイト
「これは.....」

メールだ。

フェイト

「来た！『ミッション1』！」

ハルヒ

「『今回君達が持つゲームタイマーにはゲーム開始からの移動距離を計測する機能が搭載されている』何それ？」

雪歩

「『ゲーム残り100分までに総移動距離が2Kmに達しなければ、その逃走者は』……………」

古泉

「『その逃走者は強制失格となる』…………いきなり厳しいですね」

涼

「『なお、移動距離は博物館内にある電工掲示板で確認する事ができる』…………ちよつとやばいかも……………」

「MISSION 1 強制失格を回避せよ！」

現在、逃走者達の腕に装着されたタイマーによってゲーム開始からの移動距離が計測されている。

ゲーム残り100分までに2Kmの距離を移動しなければ強制失格となる。

総移動距離はその場で確認する事はできないが、エリア北西の博物館内にある電工掲示板に全員のゲーム開始からの移動距離が表示されている。

まどか

「あれじゃないですか？」

冬馬

「おー、全員分見れるのか」

まどか

「しかも捕まった人の名前の横に『確保』って書いてある……………」

愛

「ホントですねー！」

冬馬

「うおっ！いつの間に！？」

愛がまどかと冬馬に合流し、三人は一緒に電工掲示板を見る。

「日高愛 1.4 K m」

「天ヶ瀬冬馬 0.6 K m」

「鹿目まどか 0.9 K m」

冬馬

「結構歩いてんだな二人とも」

残り100分までに移動距離が2 K mに達していなければ、その時点で強制失格。

しかし、距離を稼ごうと動けばハンターに見つかる危険も高まる。

果たして、強制失格になってしまう者は現れるのか!?

残り時間 112..29

賞金 ¥135300

———残り23人———

それぞれの行動（後書き）

イブニングゼロの逃走中初の強制失格ミッション。
果たして、全員クリアできるか！？

生き残り目指して0.5理(前書き)

なのはA Wを執筆していて遅くなりました。
ミッション1です。

生き残り目指して0.5理

今回のゲーム最初のミッションが始まった。

ハンターから逃げつつゲーム残り100分以内に2Kmの距離を移動できなければ強制失格となる。

残り時間 112.00

賞金 ¥144000

前回 開始時 25人

確保 2人

現在の逃走者 残り23人

スタスタスタ……………

みくる

「……………」

杏子

「ほいほい……………」

キュウベえ

「えっほ、えっほ」

移動距離を稼ごうと、牢獄の前を行ったり来たりする杏子とキュウベえ。

キュウベえ

「ふい……………結構疲れるよね」

杏子

「ふう……………せめてどのくらい走ったかすぐ分かればいいんだが、それには美術館行かないとなんだよな」

キュウベえ

「ボク達は今10mぐらいの距離を往復しているから、5往復で100m。つまり……………」

杏子

「最低でも100往復しないといけないのか。辛いな……………今ハンター来たらやばいぞ」

キュウベえ

「いや、千早を確保したハンターはもう向こう行ったし、そう簡単には……………」

マミ

「いいえ、ハンターはどこから来るか分からない。ちょっとでも気づくのが遅いと……………マミるわ」

杏子

「ま……………マミる!？」

キュウベえ

「何だいそれは？」

マミ

「わ、私みたいに油断して捕まる事よ／＼／」

ハンターは神出鬼没。ほんの一瞬でも気を抜けば、確実にマミる。

ほむら

「あ、あなた達は……………」

スバル

「おゝい」

なのはとスバルにほむらが合流。

スバル

「ちゃんと走ってるよね、ほむほむ？」

ほむら

「ほむほむ!？」

なのは

「にやはは……スバル、ほむらちゃんと仲良くなりたいて言ってたから……」

スバル

「あたしと声似てるし」

ほむら

「だからって『ほむほむ』はちょっと……／＼／＼」

明るい雰囲気の三人の近くに、ハンター……

ハンター

「!」

なのは

「来たよ!ハンター!」

スバル

「えー!」

ハンターに見つかり、三人は同じ方向へ走り出す。
そしてなのはとほむらは途中で別の方向へ逃げようとする。

スバル

「ひいゝ！」

なのは

「あれ！？ ちょっとスバルゝ！？」

ハンター

「LOCK ON NANOHA」

一步遅れたスバルはほむらと同じ方向に逃げていき、なのはは一人ハンターに追われる。

全力全開で走り続けるも、ハンターは瞬く間に追いついてくる。気づいた時には、確保まであと3メートル。

なのは

「にゃああゝ！」

ポ
ン
ッ

「高町なのは 確保 残り22人」

残り時間 110..29

賞金 ￥171300

なのは

「ええゝ……………無いよ……………何でスバルあっち行っちゃったのゝ…
……………このゲーム一人じゃすごい恐いのに……………」

不屈のエース・オブ・エース、まさかの早々の撃沈……………

ほむら

「あっちはあっちで捕まったみたいね」

スバル

「あゝ……………絶対後で怒られる……………」

エリオ

「確保情報……ええ！？なのはさーん！？」

絵理

「『残り22人』……ひう……怖い……」

春香

「うわゝ、目の前で捕まってる……怖いよ……」

近くに隠れていたために目の前でなのはの確保を見ていた春香。ハンターがまだ近くをうろつき、思うように動けない……

ティアナ

「とりあえずここらへん回ってれば……危なっ！」

美術館の周りを回って距離を稼ごうとするティアナはまたハンターを発見。

ティアナ

「まったく、何でさっきからあたしの近くにハンター来るのよ………さっきはなのはさん捕まったし、あいつら機動六課に何か恨みでもあるんかい………」

一方、美術館内では冬馬とまどかが少し前の杏子とキュウベえと同じ事をしていた。

まどか

「ど、どのぐらい行っただのかな………」

冬馬

「何だ、もうへばったのかよ？」

まどか

「ま、まだ大丈夫です！」

冬馬

「そうこなくっちゃな！さて、あとどんぐらいかな、っと………」

電工掲示板を見る。

「天ヶ瀬冬馬 1.6 Km」

「日高愛 CLEAR」

「鹿目まどか 1.9 Km」

「涼宮ハルヒ CLEAR」

冬馬

「おっし！もうちょい！」

まどか

「愛ちゃんと涼宮さんクリア早い……………」

既に愛とハルヒがミッションをクリアし、冬馬とまどかもクリアまであとわずか。

しかし、ティアナが目撃したハンターが……………

ハンター

「！」

一瞬だけ美術館の中のまどかの姿が目に入り、確保へと向かう。

冬馬

「ハンター来やがった！」

まどか

「今度は本物く！？」

逃げる二人を追いかけようと美術館に入るハンター。

ティアナ

「死ぬかと思った……………」

ハンターがすぐ横ギリギリを通り過ぎたティアナは一度美術館の壁に沿ってその近くを離れる。

一方、ハンターに追われるのは……………

まどか

「いやゝ！」

まどかだ……………

ハンターとの距離がそんなに近くない内に、通路の角を曲がって逃げる。

ハンター

「？」

ハンターの視界から外れたようだ。

まどか

「も、もう追いかけてこないよね？」

ハンターはまどかを見失い、引き返す。

その先には……………

冬馬

「鹿目がクリアしたか……………」

ハンターに追いかけられているうちにまどかの移動距離は2Kmを越え、電工掲示板のまどかの名前の横に『CLEAR』と浮かんでいた。

冬馬

「俺も早いところクリアしないと……………って嘘だろ!？」

戻ってきたハンターに気づき、あちらに気づかれる前に美術館を出る。

ティアナ

「あ、今ハンター入ってたけど大丈夫なの？」

冬馬

「多分もうこっち来るから逃げた方がいいぞ」

入口近くへ戻って来ていたティアナは再び離れる。

ハンター

「!」

冬馬

「来たか!」

ハンターは入口を出た所で冬馬を視界に捉え、確保に向かう。

美術館からかなり離れていた冬馬はその先の木々が生い茂る場所へ。

そこには……………

キヨン

「うおっ!?!」

森の中で動き回っていたキヨンだ。

巻き添えを喰らい、冬馬と共にハンターから逃げる。

ハンター
「？」

木々が遮蔽物となり、うまく撒いたようだ。

キヨン

「なぜハンターがここに………」

冬馬

「知らん」

その頃、美術館には別の逃走者が辿り着いていた。

雪歩

「あともうちよつとか………」

古泉

「僕もですね」

まどか

「私とさやかちゃん、いつの間にかクリアしてる………」

「萩原雪歩 1. 5 Km」

「鹿目まどか CLEAR」

「美樹さやか CLEAR」

「古泉一樹 1.6 Km」

現在の所、ミッションクリアが確定しているのは日高愛・鹿目まどか・美樹さやか・涼宮ハルヒの四人。

果たして、全員クリアなるか……

残り時間 106.30

賞金 ¥243000

ミッション残り時間

————6.30———

——残り22人———

生き残り目指して0.5理（後書き）

まどマギポータブルにQB視点のモードがある事が判明。
もし五人全員生き残ったらどうなるのやら。

強制失格5秒前!?(前書き)

一日で書き上げたのですっごい適当ですが、ミッション1の続きです。

強制失格5秒前!?

残り時間 106.000

賞金 ¥252000

前回 開始時 23人

確保 1人

現在の逃走者 残り22人

さやか

「さすがにやばい……もう時間ないってこれ……」

移動距離を稼ごうと積極的に動くさやか。

しかし、既に移動距離は2Kmに達している事をさやかは知らない。

他の逃走者達にもだんだんと焦りが見える。

エリオ

「もうすぐか……」

長門

「あと5分………」

ミッション残り時間

———5..00———

涼

「さすがに序盤で失格はやだよ………」

杏子

「あとどんぐらいだよ！？」

ミッション終了まで5分を切った。

果たして、強制失格を免れる事はできるのか！？

スバル

「きつついね」

ほむら

「ええ」

この二人もミッションクリアのために動き回る。

足の速いスバルが普通なほむらをアシストするという形をとり、なんとかハンターに気づかれずにいた。

しかし、何事も長くは続かないものである。

ほむら

「いたわ！ハンター！」

スバル

「嘘っ！？また！？」

ハンター

「！」

ガーデンエリアへ向かっていた二人だったが、ハンターに見つかり、駐車場へ引き返す。

みくる

「あ！スバルさんです！」

マミ

「暁美さんも……追われてる!？」

なのは

「頑張れ!」

スバル

「なのはさくん! さっきはごめんなさ〜い!」

捕まった四人の声援を受けつつハンターから逃げる二人。

ハンター

「?」

駐車場のトラックの影を利用し、ハンターの視界から消えた。

ほむら

「あ、危ない………」

ミッション残り時間

3..00

ミッション終了まであとわずか。

涼

「ぎゃおおおおん！まだ足りてないー！」

キャロ

「うーん……私もあとちょっとなだけどな………」

〔秋月涼 1.8 Km〕

〔キャロ・ル・ルシエ 1.7 Km〕

他にも電光掲示板を見るためにフェイト、キヨン、律子が美術館を訪れては外へ戻っていった。

ミッション残り時間

———1..00———

はやて

「みんな大丈夫かいな………」

———0..50———

キュウベえ

「あとは結果を待つだけか……………」

———0..40———

雪歩

「強制失格になったらいくら穴掘っても掘りきれないですう……………」

———0..30———

キヨン

「時間だな……………」

5

6

7

8

9

0
..
1
0

愛
「春香さん、大丈夫かな………」

0
..
2
0

ピ リ ッ ピ リ ッ	賞金	残り時間	1	2	3	4
	¥					
	3	1				
	6	0				
	0	0				
	0	..				
	0	0				
	0	0				

春香

「『ミッション結果』……………」

まどか

「『現在の逃走者は22人。その内1人が強制失格となった』……」

長門

「『その逃走者は』……………」

惜しくも全員クリアとならず、1人が強制失格となった。

その逃走者は……………」

ティアナ

「ええ！？あたし強制失格！？……………うわゝ、やっちゃった……………この辺り回ってるだけじゃ足りなかったんだ……………うわゝ悔しい……………」

「ティアナ・ランスター 強制失格 残り21人」

スバル

「ティアー!？」

律子

「あらら………」

古泉

「全員クリアはなりませんでしたか………」

◇牢獄DEトーク◇

マミ

「ティアさん強制失格!」

なのは

「ああ………」

みくる

「ひえ………どんどん減ってるよお………」

千早

「いや、今のペースはいつもよりは短いほうだと思うわ」

なのは

「そうかなあ？」

マミ

「それより、如月さん」

千早

「？」

マミ

「あなたの活躍、DVDで見てたわ」

千早

「え？もうDVDが？」

マミ

「ええ。前の遊園地でのあなた、輝いてたわ」

千早

「いや、私は敗者復活からだったから………」

なのは

「雪歩ちゃんは最初から最後まで逃げ切ったもんね。その次の涼君も」

マミ

「私逃走中大好きで、DVDも全部持ってるの。特典映像の牢獄D Eトークも全部見たわ。案外笑い上戸なのね、あなたって」

千早

「……………／／／」

牢獄の者達が明るくそんな話をしている間、残る逃走者達はハンタ ーの恐怖に必死に耐えている。

逃げ切る者は現れるのか……………

残り時間 99..13

賞金 ¥374100

———残り21人———

強制失格5秒前!?(後書き)

今更ですが、人間化した本作のQBの容姿はとある同人誌のような姿です。

その同人誌では女の子なのですが、本作ではそれを男にしたような感じです。

要は昔の秋月涼のような男に見えない男です。

そしてもうすぐ逃走中があります。

絶対見ましょう!

表と裏で動き出す者達（前書き）

9日の逃走中は見ましたか？

表と裏で動き出す者達

残り時間 98..56

賞金 ¥379200

前回 開始時 22人

強制失格 1人

残りの逃走者 21人

キュウベえ

「それにしても今日は絶好の契約日和だよ。今のボクの姿じゃ誰も相手にしてくれないけど」

ミッションを終えたキュウベえはガーデンエリアを散策していた。

ふと噴水を覗くと、人間の姿をした今の自分の顔が水に映る。

キュウベえ

「……………」

まどか達や過去に出会った少女達をエネルギー採取の道具に使っていた頃を思い出し、虚しくなった。

今度は人間の心と身体を手に入れ、まどか達と暮らしていく中でまどかが笑う顔を思い浮かべ、ちよつと楽しくなった。

そして、もう一度噴水に映る自分を見る。

キュウベえ

「…………人間っていうのも、案外悪くないかな…………おっと、ハンターだ」

そう呟き、遠くに見えるハンターに気づかれる前に近くの看板に隠れる。

しかし、別の方向からもハンター…………

キュウベえ

「また来た…………うまくやり過ぎたいけどな…………」

距離が縮まり、絶体絶命のキュウベえ。

フェイト

「あ！居る…………」

ミッション終了後、ティアナが隠れていた茂みに身を潜めていたフ
ェイトはそのハンターの後ろ姿を見てさらに警戒を強める。その距
離はキュウベえより近い。

キャロ

「フェイトさん大丈夫かな………あんなのに追いかけられたらいく
らフェイトさんでも怖いよね………」

心配になってフェイトに電話をかける。

フェイト

「そのまま………そのまま向こう行って………」

プルルルル

フェイト

「Σ（‘，Д，’）」

ハンター

「?」

フェイト

「ちよつ、嘘……嘘でしょ!？」

ハンター

「!」

着信音でハンターに気づかれ、逃げ始める。

逃げた先には……

キャロ

「あれ? フェイトさん近くに……え!？」

保護者の巻き添えになった……

キャロ

「来ないで下さい!」

フェイト

「そ、そんな事言ったって!」

ハンター

「LOCK ON FATE CARO」

必死に走るも、やがてフェイトがキャロを追い抜き、大きく引き離

す。

よって必然的にキャロがハンターの標的となる……

キャロ

「わっ！ やだっ！」

ポンッ

「キャロ・ル・ルシエ 確保 残り20人」

残り時間 96..49

賞金 ￥417300

キャロ

「はひい……もしかしてフェイトさんがハンターに追いかけてこっち来たのって、私が電話かけたせい？」

悪意はないが、運もなかった…………

フェイト

「あわわわわわわわ…………私キャロになんて事を…………○（＞
＜）○」

キュウベえ

「ここは一旦場所を変えた方がいいかな？」

愛

「『美術館付近にてキャロ・ル・ルシエ確保、残り20人』…………」

エリオ

「機動六課がどんどん脱落してるな…………僕も気をつけないと」

杏子

「食うかい？」

さやか

「こんな時までおやつ食べてるし…………緊張感がないんかい」

ショッピングエリアにて、涼しい顔でう〇い棒をかじる杏子。
もう片方の手には三本が握られており、さやかは一本を受け取って
食べ始める。

さやか

「まさか自首する気はないよね？」

杏子

「さーね。逃げ切るか自首するかちょっと迷ってるんだよな。お金
があればおやついっぱい食えるけど、ハンターに捕まっちゃったら
0円だし……………」

さやか

（絶対自首しそう…………）

杏子

「……………ん？何だ？」

杏子が辺りを見回すと、ある人物達を中心に人だかりができている。

杏子

「あれ！？もしかして……………」

さやか

「竜宮小町だ！」

その中心に居たのは、今回のゲームに不参加の竜宮小町の三人であった。

あずさ

「あら、まどかちゃんのお友達のさやかちゃんに杏子ちゃんじゃないの」

さやか

「え？なんであたし達の事を？」

伊織

「前に見滝原市でのライブがあったでしょ？その時あずさがまたどっかいっちゃってさ」

亜美

「まどつちが見つけてくれたんだよ」

杏子

「ふーん……もしかしてここでライブ？」

伊織

「そうそう。ほら」

伊織が指差した先には特設ステージがあった。

伊織

「せっかくの仕事なのに律子は『逃走中に出る』っていつて居ないから私達だけでなんとかやってるって訳。しかもその舞台がここな上にあんた達が参加してるなんて」

あずさ

「さっき絵理ちゃんに聞いたのよ」

律子

「ぶえっくし！」

.....

その頃、月村達は.....

アイリス

「準備完了しました」

月村

「よし、早速次のミッションを始めるとしよう」

フェニス

「それにしても、敵はどこに………」

月村

「もし相手が我々がグレイト・エスケーパー計画を嗅ぎ回っている事に気づいているのならば、必ず何かしらの妨害がある筈だ。最初のミッションで時間稼ぎができていれば尚更だ」

フェニス

「もしそうだったら？」

月村

「外部からの不正アクセスによる妨害なら、その経路を辿って発信元を特定できるだろう」

そう言うのと月村は端末を操作する。

すると、エリア内にハンターの顔を模したマークが映し出されたモニターがある七台の機械が転送された。

.....

残り時間 93..00

賞金 ¥486000

ピリリッピリリッ

涼

「おっとっと……」

メールだ。

涼

「あ、メール……『ミッション2』か！」

長門

「『エリア内に七台のハンター誘導装置を設置した』……」

ほむら

「『ゲーム残り75分になるとエリア内にハンターを7体放出し』……7体!?!」

キョン

「『以降3分ごとにハンターが7体ずつ放出され続ける』だど!?!?」

さやか

「『阻止するには装置の二つのレバーを二人同時に降ろして装置を止めなければならない』」

はやて

「『装置は1〜7までの番号順に止めなければならず、1台停止するごとに放出されるハンターの数が1体減る』……うわゝ、ムズイわゝ」

「MISSION 2 ハンター誘導装置を停止せよ!」

エリア内に設置されている、七台のハンター誘導装置。

ゲーム残り75分までに誘導装置を探し出し、装置の二つのレバー

を二人同時に降ろして停止させなければ、駐車場エリアにあるトワイライト・ガーデンの入口から停止していない装置と同じ数のハンターを放出。

その後、3分ごとにハンターが停止していない装置の数だけ放出され続ける。

但し、装置には1～7の番号が刻まれており、番号順に装置を止めなければならない。

また、装置は美術館内、ガーデンエリアの森、噴水の自首用電話の近くに一台ずつ、ショッピングエリアと駐車場に止まっているトラックの中に二台ずつ設置されており、地図で確認もできるが、番号は分からない。

さやか

「ちょうど二人居るし、行くよ！」

杏子

「ok」

春香

「こ、これは行かないと……………」

ハルヒ

「あたしがやりゃクリアしたも同然でしょ！」

エリオ

「7体とか来たら終わる……行かないと！」

まどか

「ほむらちゃんはミッション行く？（ほむらに電話中）」

ほむら

『まどかが行くなら私も』

さやか、杏子、春香、ハルヒ、エリオ、まどか、ほむらがミッションへ向かう意思を示す。

冬馬

「まずは他の連中を探すか……」

冬馬も果敢に動き出し、装置より先に他の逃走者を探し始める。

7台の装置を止めなければ、大量のハンターが放出されてしまう。

しかし、エリア内には4体のハンター。動けば見つかる危険も高まる。

ハンター放出を阻止する事はできるのか!?

残り時間 91..42

賞金 ¥509400

-----残り20人-----

表と裏で動き出す者達（後書き）

新たなミッションが始まりました。

一方の月村達の動きにも注目です。

大量ハンター放出の恐怖（前書き）

ミッシェン2です。

大量ハンター放出の恐怖

逃走者が残り20人になった所で、新たなミッションが始まった。

二人の逃走者でハンター誘導装置を番号順に止めなければ、残り7分から3分ごとにハンターが放出される。

残り時間 91..30

賞金 ¥513000

前回 開始時 21人

確保 1人

残りの逃走者 20人

ショッピングエリアにてハンター誘導装置を探すエリオ。

エリオ

「しかしこの辺は人が多いな……ハンターが紛れ込んでるかもしれないし、慎重に行かないと」

ハンターは神出鬼没。いつどこで遭遇するか分からない。

エリオ

「装置どこだ〜？」

辺りを見回しつつ先へ進む。

しかし……………

店店店店店店店

■↑誘導装置

↓↓↓↓↓↓↓エ

店店店店店店店

誘導装置を通り過ぎた。

キュウベえ

「ハンター誘導装置ってこれの事かな？」

いち早く噴水近くの誘導装置を見つけたキュウベえ。

まどか

「キュウベえ！」

キュウベえ

「あ、まどか」

そこに装置を探すまどかが姿を現す。

まどか

「キュウベえもミッションやってるの？」

キュウベえ

「装置を見つけたからにはやらない手はないね。でもこの装置の番号は6だ。まだ止められない」

ハンター誘導装置は黒い円筒状になっており、モニターの左横に数字が刻まれている。

キュウベえの言う通り装置には『No. 6』と刻まれており、モニターにはハンターの顔の下に『切替不可』と表示されていた。

まどかは困った顔をした後、別の装置を探しに行った。

ハルヒ

「あつたー！って違うじゃん！」

ハルヒも駐車場のトラックの荷台にある誘導装置を発見。
しかし、番号は3だ。

ハルヒ

「あ、春香ちゃん……ちゃんと探してんのかな」

視界にはトラックに隠れつつ装置を探す春香の姿。

その近くに……

ハルヒ

「げっ！やばい！」

一瞬黒い何かが見え、その場を離れるハルヒ。

しかし、それはハンターではなく……

律子

「あ、ミッションやってる？」

春香

「当然です！だってハンター7体も……………」

律子

「そうね。しかし最近は逃走中も進化したわね……………ミッションも舞台もとにかく色々」

そう呟きつつ装置を探す。

そして……………

春香

「ありました〜！NO. 1ですよ、NO. 1！」

遂にNO. 1の装置を見つけ、春香と律子はレバーを下げようとする。

ところが……………

律子

「ん？ちょっと待って？」

春香

「え？」

律子

「え、ちょ、何これ？切替不可！？」

春香

「ええ〜！？」

一番最初の装置である筈のNo. 1の装置に『切替不可』と表示されていた。

春香

「切替不可って……………」

律子

「え？え？どうするの？」

試しにレバーを降ろしてみるが、装置は止まらない。

混乱する二人の近くに、冬馬が現れる。

冬馬

「何してんだ？装置でも見つけたのか？」

春香

「そ、それが……………」

律子

「1番の装置を見つけたはいいけど、切替不可になってんのよ……
…一番最初に止めなきゃならない筈なのに………」

冬馬

「何っ!？」

一方、こちらはショッピングエリア。

涼

「あ、あれじゃないですか誘導装置って？」

はやて

「ホンマや!」

涼とはやてが合流し、竜宮小町のステージ近くに別の装置を発見した。

はやて

「でも『No. 7』って書いてあるえ」

番号を確認してすぐ通り過ぎる二人。

さやか

「あ、涼！装置見なかった？」

涼

「あっちの装置は7番だったよ」

杏子

「場所だけ確かめよう」

別の方向から来たさやかと杏子が先程の装置へと向かう。

しかし、その正面からハンター……………

ハンター

「！」

杏子

「ってハンター来た！」

はやて

「なんやてー！？」

さやかと杏子はすぐ物影に隠れ、はやてと涼もまっすぐに逃げた後に出店に隠れる。

ハンター
「？」

ハンターは四人を見失ったようだ。

しかし…………

長門
「！」

ハンター
「！」

たまたま近くを通り掛かった長門が見つかった…………

涼

「不幸な人だ…………」

はやて

「運が悪かったな」

その様子を出店の影から見つつ、ハンターが離れるのを待つ涼とはやて。

ハンター

「LOCK ON YUKI」

その気になればハンターなど簡単に振り切れる長門だが、ゲーム中はそうもいかない。

普通の人間レベルの速さで走る長門にハンターが迫る。

長門

「……………！」

ポッ

「長門有希 確保 残り19人」

残り時間 87..37

賞金 ¥582900

長門

「……………捕まった」

無表情で牢獄へ向かう……………

ハルヒ

「有希〜!」

スバル

「『長門有希確保、残り19人』……………」

絵理

「20人切った?」

まどか

「あった!……………あれ?さやかちゃん?」

さやか

「お?」

杏子

「そつちも探してたみたいだな？」

まどか、さやか、杏子が先程のN O. 7の装置に辿り着く。

杏子

「N O. 7だから一番最後か。手分けして探すぞ」

まどか

「うん……あれ!？」

その時、まどかが装置のモニターを見て驚く。

さやか

「まどか、どうし……あれ!？」

何と、N O. 7の装置のモニターに『切替可能』と表示されていた。

さやか

「え!?! もう六つ止められてるの!?! 早くない!?!」

杏子

「とにかくさっさと止めるぞ」

さやかと杏子が装置のレバーを降ろすと、モニターが消える。

ハンター誘導装置 停止 残り6台

愛

「メール…『美樹さやか、佐倉杏子の活躍によりハンター誘導装置が1台停止』……」

キヨン

「あと6台か」

まどか

「でも、ミッションクリアってメールが来ない……」

一方、No. 1の装置の近くの三人は……

プルルルルル

冬馬

「およ？ 鹿目から電話だ」

律子

「随分まどかちゃんと仲良いのね」

冬馬

「まあな。もしもし？」

まどか

『冬馬さん？ 今さやかちゃんと杏子ちゃんが装置一つ止めましたよ』

冬馬

「え？ 止めた？ 俺今1番の装置の近くなんだが、切替不可になつたぞ」

まどか

『へ？ さやかちゃん達が止めたのNO. 7って書いてありましたよ？』

冬馬

「ああん？ NO. 7って………ん！？ まさか！？」

まどか

『どうしたんですか？』

冬馬

「確かメールに『1から順番に』とは書いてなかったよな？」

まどか

『え？ そうでしたっけ？』

冬馬

「もしかして番号順は番号順でも、7、6、5、4、3、2、1の順番に止めないとなんじゃねえか？」

まどか

『えー！？』

.....

一方、月村達は.....

月村

「どうやら無事に気づいてくれたようだな。発信元は掴めたか？」

月村は1から順番に止めるように設定していたが、外部からの妨害によって順番が逆になってしまった。

しかし月村はそういったゲームへの妨害を誘う事でその大元、つまりグレイト・エスケーパー計画の首謀者を探ろうとしていた。

フェニス

「どうやら発信源は月村様が持っているものと同じ外部端末のようです」

月村

「これでは犯人の特定は難しいな……………」

月村達は地下制圧用ハンターが来るまでもうしばらく様子を見る事にした。

その姿を、どこからか見下ろす者が居た。

？

「なかなか手の込んだ真似をするな。R8（アールエイト）、引き続き監視を続けろ」

R8

「了解……………」

R8と呼ばれた謎の少年がその人物に頷く。

？

（月村、お前が何をしようとグレイト・エスケーパー計画は止められない。何しろこの計画は今回のゲームが始まる前から続いている

のだからな……………)

R 8

(月村サトシ……………あなたは どうする?)

謎の人物とR 8はただ月村達を見つめていた。

……………

そしてこの謎の人物の妨害により、逃走者達はハンター誘導装置を逆の番号順に止めなければならなくなった。
さやかと杏子がN O. 7の装置を止めたため、残りは6台。

キュウベえ

「今まどかから電話があって、7から順番に装置を止めるみたいなんだ」

古泉

「随分と手の込んだミッションですね。テレビでもたまにこういうのありますからね」

No. 6の装置の近くで待機していたキュウベえの近くを古泉が通り掛かり、二人で装置を止めた。

ハンター誘導装置 停止 残り5台

古泉

「次はNo. 5の装置ですね」

キュウベえ

「ボクも探してみようかな……………」

一方、No. 1の装置の近くの三人は……………

春香

「これは一番最後か……………もう……………何で逆なの……………」

律子

「とにかくまた1台止められたみたいだし、手分けしてNo. 5を探すわよ」

冬馬

「言われなくとも!」

三人は別々に次の装置を探し始めた。

残り時間 83..06

賞金 ¥664200

-----残り19人-----

大量ハンター放出の恐怖（後書き）

次の逃走中は来年の1月と予想するこの私午後零P。
あちらのドラマの展開も気になります……………

混乱のステージ（前書き）

遂にP S 3版アイドルマスター2発売！

木星がS 4 Uに登場、D L Cで初音ミク登場。

そしておまけモードで律子と竜宮小町にスポットライトが……………！

箱ユ―ザーエ……………

混乱のステージ

残り時間 83..00
賞金 ￥666000

前回 開始時 20人
確保 1人

残りの逃走者 19人

ハルヒ

「ちよつと!?!? 何で切替不可なのよ!」

再びNO.3の装置へと戻ったハルヒ。しかし、数字とは逆の順番に装置を止めなければならぬ事を彼女はまだ知らない。

一方、こちらはショッピングエリアに隠れている雪歩。

雪歩

「ううう……………今日はあまり動きたくないですう……………やっぱりハ

ンター怖いよ」

だんだんハンターに慣れてきている雪歩だが、前回ハンター6体に追いかけられたのが軽いトラウマになっているらしく、今回はミッシェンは誰かに任せるようだ。

所変わってこちらはエリア北西の美術館。

杏子

「あ、あったあった、No. 5！」

さやかと杏子が美術館の屋上に設置されたハンター誘導装置を発見。

二人でレバーを降ろし、装置を停止させた。

ハンター誘導装置 停止 残り4台

さやか

「…………ハンター居る！」

見晴らしの良い屋上から噴水の近くを歩きながらこちらへ近づくハンターを発見。

杏子

「やばいなこれ……登って来られたら逃げ場ないぞ」

さやか

「……………ん？」

その時、ショッピングエリアの方向に何かを見たさやか。

絵理

「あ、止まってる？」

既にさやかと杏子に止められているN O. 7の装置を見つけた絵理だ。

先程のハンターは屋上のさやか達には気づかずそちらへ向かっている。

さやかが手を振って知らせようとするが、絵理はさやかにもハンターにも気づいていない。

ハンター

「！」

絵理

「ひうつ！」

見つかった……

杏子

「あちゃ……」

絵理が追われている間に美術館の中へ降りる二人。

そして二人が一階まで降りた頃に……

絵理

「ひゃー！」

ポンッ

「水谷絵理 確保 残り18人」

残り時間 81..19

賞金 ￥696300

絵理

「もう………無理？」

前々回の健闘ぶりはどこへやら………

涼

「ちょーい！？絵理ちゃん！？」

古泉

「『水谷絵理確保』ですか………」

マミ

「水谷さん確保〜！」

牢獄組

「あゝ……………」

杏子

「ここからは別々に探すか？」

さやか

「別にいいけど？」

美術館を出た二人は二手に分かれて装置を探し始める。

杏子

（このミッションであと一個止めれたら自首するか……………）

自首を考え始める、大食い魔法少女。

エリオ

「あった！NO. 4！」

ハルヒ

「あたしら絶好調じゃない！？ねえそうじゃない！？ねえ！？」

エリオ

（テンション高いな）

こちらではエリオとハルヒが合流し、先程エリオが通り過ぎた装置を発見。しかも幸運な事に、N O . 4の装置だ。

エリオ

「切替可能になってますね」

ハルヒ

「ほらほら、チャッチャと降ろす!」

順番が逆になっている事を知らないまま装置を止める二人。

ハンター誘導装置 停止 残り3台

ハルヒ

「じゃ〜ね!」

エリオ

「あ、涼宮さん……………行っちゃった」

残り時間 80..00
賞金 ￥720000

ハンター放出まで5分を切った。

このままでは3体のハンターが放出され、非常に厳しくなる。

キヨン

「ん？既に4台止まってる筈なのに何でN.O. 2が……」

森の中でまだ止まっていないN.O. 2の装置を見つけたキヨン。彼も順番が逆なのに気づいていない。

そこに一人の逃走者が。

古泉

「ありましたか」

キヨン

「おお。でも切替不可になってるんだが……止める前に何かしないとダメなのか？」

古泉

「いえ、特に何も。数字の逆の順番に止めるだけです」

キヨン

「何だよそれ……………」

その時、近くにハンター……………」

ハンター

「!」

古泉

「では別の装置を探しに行きましょう。ハンター放出まで時間があります」

キヨン

「やれやれ……………ってハンターだ!」

迫るハンターに気づき、森の中を走り出す二人。

狙われたのは……………」

古泉

「来ましたか……………」

ハンター

「LOCK ON ITUKI」

ハンターの追跡から逃れようとするも、逃げ始めた時のハンターとの距離が近かったため、すぐに追いつかれる。

古泉

「これでは……………」

ポンッ

「古泉一樹 確保 残り17人」

残り時間 78..04

賞金 ￥754800

古泉

「いやはや、捕まってしまいました。ハンターってどこからでもやって来るんですね」

ハンターは神出鬼没。いつどこに現れるか分からない。

はやて

「また確保情報……『古泉一樹確保』やって」

愛

「あと17人ですね」

ほむら

「だんだん減ってきたわね……」

春香

「涼宮さん、こっち！」

ハルヒ

「はいはい！」

NO. 3の装置を見つけた春香がハルヒを手招きする。

ハルヒはさやかと杏子が止めたNO. 7の装置を見て気づいたらし

く、こちらに戻って来る途中だった。

残り時間	77:00
賞金	¥774000

ハンター放出まで

—————2:00—————

ハルヒ
「まったく、ミッションはややこしいわあたし以外のSOS団はみんな捕まるわ、なんかやばいわ」

春香

「あれれ？キョンさんは？6（のワの）」

ハルヒ

「あいつはあれで結構しぶといから放つといっても大丈夫でしょ、多分」

そう言いつつNo.3の装置を止めた後、二人は別れた。

ハンター誘導装置 停止 残り2台

その時、森の中では…………

杏子

「くっ…………邪魔だ…………」

キヨン

「時間が…………」

森の中にN.O.2の装置を見つけた杏子とキヨンだが、ハンターが近くをうろついている。

その間に時間は過ぎ…………

残り時間	75..20
賞金	¥804000

杏子

「今だ！」

ハンターが別の方向へ歩いていった隙に装置へ近づく。

キヨン・杏子

「そおいつ！」

ハンター誘導装置 停止 残り1台

杏子

「よし、電話さがすか」

キヨン

「おい」

これで6台の装置が止められた。

しかし………

千早

「あ、あれ！」

なのは

「なんか来た！」

マミ

「間に合わなかったのね……………」

エリア入口から1体のハンターがもの凄い勢いで走って来る。
これにより、ハンターの数 は5体となった。

冬馬

「うおっ危ねっ！」

そのハンターはNo. 1の装置へ戻ってきていた冬馬の近くを通り
過ぎる。気づかれていないようだ。

冬馬

「天海、もういいぞ」

春香

「はあ……………危なかったよ……………」

その近くには隠れていた春香。装置の近くに居た冬馬に近づこうと
して冬馬に制止されていたらしい。

冬馬

「やっとクリアだな」

春香

「1体放出されちゃったけどね……………」

冬馬

「1体だけならまだまだ余裕さ」

そして二人の手により、最後の装置が止められた。

——ミッションクリア——

ピリリッピリリッ

律子

「お？ 『天海春香、天ヶ瀬冬馬の活躍により最後のハンター誘導装置が停止』」

フェイト

「『しかし、エリア内に1体のハンターが放出された』」

キヨン

「『現在のハンター数は5体』か……………」

ハンター1体の放出を許したものの、ハンター誘導装置を無事に停止し、被害は最小限にとどまった。

現在、エリア内には5体のハンター。捕まれば、賞金は0。

残り時間 73..29

賞金 ¥837300

————残り17人————

混乱のステージ（後書き）

発売したのはいいんですが、P S 3を持っていない私。

しかし、ニコニコやようつべでプレイ動画やステージ動画を見るだけでも楽しいですよ。

動乱（前書き）

以前まどマギポータブルでQB視点のモードがあると前書きに書きましたが、その後の情報により、基本的にQB視点だと判明。（本当かどうかはまだ不明）

まどか達を生かすも殺すもあなた次第（笑）

動乱

残り時間 70..59

賞金 ￥882300

前回 開始時 19人

確保 2人

残りの逃走者 17人

さやか

「ふゝ、活躍したなゝ」

杏子と協力してミッションに貢献し、ハンター誘導装置を2つ止めたさやか。現在はその前に竜宮小町と出会ったステージの近くで様子を伺っている。

その近くの物影に……………

さやか

「あれ？雪歩？」

雪歩

「わひい！」

かなりヒビっている様子。

さやか

「前逃げ切った事があるのに今日は何もしてないみたいだったからちよつと気になってたんだけど……今日はミッシェンとかは……行く気なさそうね」

雪歩

「うう……慣れてはきたけどできれば今日は隠れていたいですう……」

さやか

「まあ、船の中で6体ぐらいに追いかけられれば誰だってそうなるよね……恐くて隠れてるんだっただいまだいいわ。どこぞの赤い帽子の奴は恐くもないくせにずっと隠れて動こうとしないんだから」

雪歩

「……でもやっぱり、こんな恐がりな私なんて……穴掘って埋まってますう！」

さやか

「はいはい、ストロップ（雪歩のスコップを放り投げる）」

雪歩

「私のスコップ！」

キヨン

「しかし、まかりなりにも学生である俺らが参加していいものなのか？」

眩きながら美術館の周辺を歩くキヨンの背後に、ハンター……………

キヨン

「ま、涼宮は全く気にしてないようだが……………！」

ハンター

「！」

すぐさまハンターに気づいて走るキヨンとそれを追うハンター。

さやか

「やばいっ!？」

雪歩

「ひいっ！」

近くに居たさやかと雪歩はキヨンの姿を見て身を隠す。

その時……

ガッ！

ハンター

「！？」

どんがらがっしょん！

先程さやかが投げて地面に落ちていたスコップを踏んでハンターは転倒。

しかも何の偶然か、このハンターは前々回でポイ捨てされたお菓子の袋を踏んで転んだハンターと同じ顔だった。

ハンター

「？」

ハンターが起き上がった時には既にキヨンは視界の外。

一方、噴水近くの自首用電話に近づく逃走者が一人。

杏子

「あそこか」

先程のミッションにおいて、N O. 5の装置を止めた後、自分があると一つ装置を止めたら自首すると言っていた佐倉杏子だ。

周りにハンターが居ないか警戒しながら電話ボックスに近づく。

杏子

「よっし！」

ボックスを開き、中の携帯電話を手にとった。

杏子

「さやかには悪いけど、あたしは一足先にお金頂くぞ。だって80万だってあたしらにとっては十分大金だろ。変に欲張るとロクな事がないってのをあたしはよく知ってるぞ」

電話のボタンを押す。

杏子

「あゝ、もしもし？佐倉杏子だけど、自首するぞ」

自首成功

残り時間 66・46

賞金 ￥958200

佐倉杏子 賞金95万8200円獲得

杏子

「きゅ、95万！？もうそんなにいったのか！やった……これですばらくは飯には困らないぜ……」

ピリリッピリリッ

はやて

「ん？『自首情報』やとー？」

さやか

「『佐倉杏子自首成功』……………杏子ーーーー!!」

◇牢獄DEトーク◇

マミ

「佐倉さん自首……………」

なのは

「えー!」

千早

「遂に自首が出てしまったわね……………」

マミ

「まあ、大体予想はしてたわ。佐倉さんってあれで生活大変みたいだし、お金を欲しがるのも無理はないかしら」

絵理

「私達の周りでは初めて?」

古泉

「そうなんですか……………」

みくる

「最近は自首したらブログが荒れるって言われていますし……………」

キャロ

「そういうものなんですか？」

ティアナ

「あたしは許せる自首だと思うけどね。だってさっきのミッションで一番活躍してたし」

なのは

「でもさやかちゃんは絶対許してくれないかもね……………」

長門

（量子力学の本を読んでいる）

まどか

「あ、また会いましたね」

冬馬

「おう」

このゲームの中ですっかり仲良くなった二人。

まどか

「何で杏子ちゃん自首するの……………」

冬馬

「俺に言われても……………はあ……………」

まどか

「？」

冬馬

「いや、さっき俺のファンに会ったんだけどさ、最近俺に変な愛称がついてるみたいなんだよな……………さっきは『鬼ヶ島羅刹』って呼ばれたし……………」

まどか

「あゝ、でもそれぐらいならまだ……………この前クラスの男子に冬馬さんの事『ピピン板橋』って呼んでた人居ましたから」

冬馬

「『天ヶ瀬』の『あ』の字すらねえ！？つーかピピン板橋って誰だよ！？」

謎の愛称で盛り上がる、二人。

涼

「自首が出ちゃったか……………」

前回は最後まで逃げ切った涼は自首が出た事にがっかりな様子。

涼

「それより、楽しそうだな……………」

涼はショッピングエリアにて行われている竜宮小町のステージを見ていた。

ステージはここが逃走劇の舞台となっている事を忘れてしまうような盛り上がりを見せている。

しかしその時、事件が起きた。

涼

「ん？」

白いフードの人物がステージへ走り……………

？

「危ない！」

伊織

「きゃあ!？」

謎の人物が伊織と共に床に倒れ込むと同時に、機材の一つが碎け散

る。

これを引き金に観客はパニックに陥り、スタッフはそれを避難させようと動き出す。

あずさ

「伊織ちゃん！」

亜美

「だれ？この人？」

？

「早くこっちへ！」

三人は訳も分からないまま謎の人物に連れられ、美術館の中へ。

.....

一方、月村達は.....

月村

「まさか直接ゲームを荒らしに来るとはな……………」

フェニス

「どうやらどこからか狙撃してきたようです。今の所死傷者はありませんが……………」

月村

「そうか……………（今の状況からして、明らかに水瀬伊織が狙われていた。あちらの目的は一体何なんだ？暗殺が狙いならあんな大量のクローンは必要ない……………」

アイリス

「それより、もうすぐ地下制圧用ハンターが到着します」

月村

「マズイな……………竜宮小町の三人が今あの中へ入っていている。あそこの地下はクローン製造施設、何があるか……………」

月村は端末を操作し、牢獄の近くに一台の機械を設置した。

月村

「不本意ではあるが、彼女達の救出は逃走者に任せるしかないようだ……………」

.....

残り時間	62..00
賞金	¥1044000

涼

「ななななな、何か凄い事に……………」

さやか

「どうなってるのよ……………」

雪歩

「うう……………」

ピリリッピリリッ

さやか

「え？こんな時に『ミッション3』なんて……………」

律子

「『エリア内で起きた事件によって、美術館の中に竜宮小町の三人が逃げ込んでいる』……………ああ、そういえば!」

春香

「『ゲーム45分までに三人を美術館の外へ連れ出さなければ、その人数に応じて』……………」

スバル

「『その人数に応じてこれまでの賞金が減額する』……………ちょっとやばいじゃん!」

キュウベえ

「『また、ゲーム残り50分になると美術館の扉が封鎖され、中に30体のハンターが放出される』……………結構多いな……………」

「MISSION3 賞金減額を阻止せよ!」

現在、エリア北西の美術館の中には竜宮小町メンバーの水瀬伊織、三浦あずさ、双海亜美の三人が逃げ込んでいる。ゲーム残り45分までに三人を外に連れ出し、牢獄近くに設置された指紋認証装置に小町メンバーの指紋を認証させなければ、残り45分になった時点で認証できなかった人数によって以下のように賞金が減額される。

クリア 賞金はそのまま

逃走成功↓216万円

2人救出 賞金3分の2&賞金単価200円

逃走成功↓144万円

1人救出 賞金3分の1&単価100円

逃走成功↓72万円

全員救出失敗 賞金リセット&単価100円

逃走成功↓27万円

また、残り50分に美術館が封鎖され、中に30体のハンターが放出される。つまり、残り50分の時点で三人を外に連れ出す事ができなければ賞金減額が確定する。

まどか

「私、行きます！」

冬馬

「じゃーねーな、俺も付き合うぜ」

さやか

「あたしは行くからね？」

雪歩

「き、気をつけて……………」

律子

「担当アイドルを守るのはプロデューサーの仕事。行かない訳には
いかないわねこれは……………」

ほむら

「まどかはミッションやるのかしら……………」

涼

「……………よし、行こう！だって目の前であんな事になったら……………」

まどか、冬馬、さやか、律子、ほむら、涼が果敢にも美術館へ向かう。

しかし、移動には常にハンターに見つかるリスクを伴う。

加えて、時間に余裕がなければ美術館の中に閉じ込められ、30体のハンターの餌食となる。

果たして、小町メンバー三人を無事に救出し、賞金減額を阻止できるのか!?

残り時間 60..51

賞金 ¥1064700

-----残り16人-----

動乱（後書き）

既に分かっている人も居ると思いますが、実はこの作品に出ているキャラは全てPSPのゲームになってます。

……あれ？ハルヒにPSPゲームってあったっけ？
あったら感想欄をお願いします。

竜宮小町救出作戦！（前書き）

最近リリカルなのはA Wに力を入れていてこちらのクオリティーが下がっている気がする今日この頃。

竜宮小町救出作戦！

今回の逃走劇のミッションもこれで3つ目。

残り45分までに竜宮メンバーを牢獄前に連れて来なければならない、その人数に応じて賞金が減額される。

残り時間 60..00

賞金 ￥1080000

前回 開始時 17人

自首 1人

残りの逃走者 16人

残り時間は遂に半分を切り、賞金は108万円を越えた。

逃げ切れれば216万円を獲得できるが、一人でも救出に失敗すれば賞金は大きく減らされ、単価も減額される。

スバル

「うぐぐ……………」

ほむら

「居るわね……………」

途中でスバルと別れ、再び合流して美術館へ向かうほむらだが、その行く手にハンター。

ハンターは駐車場のトラックの影に隠れる二人に気づく事なく通り過ぎるが、まだ油断はできない。少しでも気配を感じれば、ハンターはすぐに確保へと動き出す。

涼

（きよろきよろ）

一方、こちらはショッピングエリアから美術館を目指す涼。

彼が通り過ぎた物影に……………

雪歩

「あ、涼君がミッション行ってる……………私も行った方がいいんだとは思っただけど恐くて動けないよ……………今日は何だか嫌な予感もするし……………」

前々回の勇姿は見る影もない……………

さやか

「一人で探すのは骨が折れそう……………」

いち早く美術館に到着したさやか。

しかし、入口の向こうにハンター……………

ハンター

「？」

さやか

「あゝ危ない……………」

気づかれそうになったがなんとかやり過ごす。

しかし、美術館の前で立ち往生……………

まどか

「早く早く！」

冬馬

「分かってるって……やれやれ、少しは警戒しろよな……」

冬馬を引っ張って先へ進むまどか。

一瞬見えたハンターをやり過ごし、美術館まであと少しの所まで来る。

まどか

「ここに竜宮小町の三人が……」

冬馬

「さっきのハンターはどっか行っちゃったみたいだし、さっさと探しに行こうぜ。あ、水瀬はお前の担当な」

まどか

「え？」

冬馬

「水瀬伊織……あいつには嫌な思い出があるんだよ……」

※詳しくはP S 3版アイマス2エクストラエピソードの伊織ルート参照

まどか

（何かあったのかな……？）

そして美術館の中へ。

その時、近くに別のハンター……………

ハルヒ

「しっかしさ……………なんか賞金の減り方が中途半端じゃない？」

その近くでばやくハルヒに迫るハンター。

ハンター

「！」

ハルヒ

「賞金リセットでもあたしは別に良かったわ。その方がみんな動くから面白い……………やばっ！」

かなり近づかれてようやくハンターに気づき、逃げ始める。

ハルヒ

「嘘っ！？思ったより速っ！？」

ハンター

「LOCK ON HARUHI」

運動能力が非常に高いハルヒだが、ハンターはその上をゆく。

次第に、距離が縮まってい……

ハルヒ

「ぎゃっっ！」

ポント

「涼宮ハルヒ 確保 残り15人」

残り時間 57..58

賞金 ￥1116600

ハルヒ

「何で………何で逃げれないのよ………何でこの私がやられち

やうのよ～～～～！」

天下のSOS団団長も、ハンターには勝てなかった…………

春香

「確保情報…………ええ～！？涼宮さん！？」

フェイト

「『涼宮ハルヒ確保、残り15人』…………」

涼

「この人だけは絶対捕まりそうにないと思ったのに…………」

マミ

「涼宮さん確保！」

古泉

「これは意外ですね…………」

キヨン

「やれやれ、俺一人か」

ハルヒの確保により、残るSOS団はキヨン一人となった。

スバル

「『ガーデンエリア東部にて涼宮ハルヒ確保』……………近いじゃん………」

ほむら

「油断できないわ……………」

ハルヒの確保地点に近い場所に居る二人。その近くにはトワイライ
ト・ガーデンの電気整備小屋がある。

ほむら

「居た！」

スバル

「うう……………」

ハンターを見つけ、小屋の後ろに隠れる。

その近くをハンターが通り過ぎていった。

スバル

「セーフ……………」

なんとか静かに移動しようとする。

しかし、同じ方向から別のハンター……………

ハンター

「！」

ほむら

「……………！」

スバル

「うぎゃー！」

すぐ近くまで来たハンターから別れて逃げる二人。

狙われたのは……………

ほむら

「マズイ……………！」

ハンター

「LOCK ON HOMURA」

ただひたすらに走り続けるが、ハンターは容赦なくほむらに迫る。

確保まであと2メートル。

ほむら

「ああっ……………！」

ポンッ

「暁美ほむら 確保 残り14人」

残り時間 57..09

賞金 ¥1131300

ほむら

「ぜえ、ぜえ……は、速すぎる……思った以上に辛いわこれ……」

まどか

「確保情報……ああー！ほむらちゃん！」

一番の親友が捕まり、動揺するまどか。

だがその時……

まどか

「あれ？もしかして……？」

伊織

「あ、あんたは……」

竜宮小町メンバーの一人、水瀬伊織を発見。

伊織

「あの時の事は感謝するわ。あずさが居なかったら……」

まどか

「そ、それより早く外へ……………」

伊織を連れ、ハンターが居ないか警戒しながら美術館の外を目指すまどか。

涼

「結構広いなここ……………」

同じ頃、涼も美術館に進入して小町メンバーを探し始める。

フェイト

「時間は大丈夫だね……………？ここで閉じ込められて捕まったらシヤレにならないよ……………」

はやて

「せやな……………」

美術館から離れた場所で合流した二人。

その近くに、黒い影。

はやて

「なのはちゃんがウチらより先に捕まってもうたのは痛いな……………」

フェイト

「うん……………なのはならみんなを引っ張ってミッション行きそうなんだけどな……………」

ハンター

「!」

見つかった……………

はやて

「ここはウチらがなのはちゃんの分まで……………ってハンターや!」

フェイト

「なっ!?!」

二手に別れて逃げる二人。

追われるのは……………

フェイト

「ひいひい!」

フェイトだ…………

まだ距離はあるが、確実にハンターは迫ってくる。

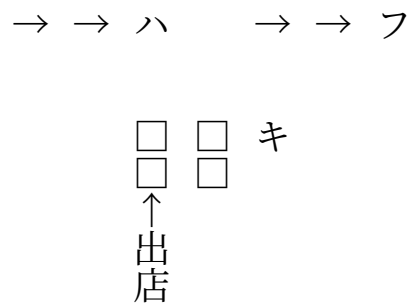
ところが、その先には…………

キュウベえ

「そろそろ一人ぐらいは外に連れ出せてる頃だと思っただけど……」

このミッションには行かずに様子を見ている、白き宇宙人。
後ろを向いているため、背後から走ってくるフェイトとハンターに
気づいていない。

←その時の位置状況



ハンター

「!」

キュウベえ

「 $\Sigma(\cdot\omega\cdot)$ 」

ハンターの標的がキュウベえに切り替わった。

キュウベえ

「え? え? そんな! ?」

ハンター

「LOCK ON KYUBEY」

慌てて逃げ出すが、時既に遅し。

キュウベえ

「もうおしまいみたいだ………」

ポント

「キュウベえ 確保 残り13人」

残り時間 56..46

賞金 ￥1138200

キュウベえ

「意外と速いな、ハンターって……………もうちょつと遊びたかったんだけどな……………」

インキュベーターより、ハンターの方が強かった。

フェイト

「あわわわわわわ……………また誰か巻き込んだじゃったよ……………」

律子

「あゝら、『鹿目九兵衛確保』だって」

今のキュウベえは鹿目家の養子という事なので、メールにはこう表

記されている。

愛

「これで半分捕まったんだ………」

さやか

「遂にキュウベえが捕まったか………まああたしにはあんまり関係ないわ」

そして同じ頃、さやかが美術館に到着。

竜宮メンバーを探し始めるが、美術館封鎖の時間は刻一刻と迫っている。

間に合うのか！？

残り時間 55..21

賞金 ¥1163700

―残る逃走者達―

天海春香 萩原雪歩 秋月律子 日高愛 秋月涼 天ヶ瀬冬馬 鹿

目まどか 美樹さやか キョ シン フェイト・T・ハラウオン 八神
はやて スバル・ナカジマ エリオ・モンディアル

―――残り13人―――

竜宮小町救出作戦！（後書き）

残っている逃走者の半分がアイマスメンバー。
他のメンバーはいい所を見せられるか！？

迫る二つのタイムリミット（前書き）

逃走劇はもうすぐ後半。

果たして、ミッションクリアなるか!？

迫る二つのタイムリミット

残り時間 55..08

賞金 ￥1167600

前回 開始時 16人

確保 3人

残りの逃走者 13人

律子

「あれ？」

まどか

「あ、律子さん！私今伊織さん連れて来ました！」

律子が美術館へ入ろうとした時、伊織を連れたまどかと遭遇。

律子

「伊織は見つかったのね。そっちは任せるわ」

それを聞いて、まどかは伊織と共に牢獄へ向かう。

フェイト

「行こうか……でも時間が……」

フェイトもミッションに向かおうとするが、既に美術館封鎖まで残り5分を切っているために断念。

うろつく彼女の近くに、ハンター。

ハンター

「！」

フェイト

「ま、またー！？」

三度ハンターに見つかり、その度に他の逃走者を巻き込んだフェイト。

逃げた先には……

春香

「今誰がミッション行ってるんだろ……………」

春香の姿……………

フェイト

「いやあ〜！」

春香

「へ！？」

フェイト

「逃げて〜！」

ハンターを連れて来たフェイトから逃げる春香。

しかし途中でフェイトに追い越され、確保まであと4メートル。

ハンター

「LOCK ON HARUKA」

春香

「ひいあ〜！」

ポンッ

「天海春香 確保 残り12人」

残り時間 53..17

賞金 ￥1200900

春香

「またダメだったよ………」

フェイト

「うう………また誰か巻き込んだやつたよ………」

罪悪感に、打ちひしがれる女。

冬馬

「また確保情報…………『ガーデンエリア東部にて天海春香確保、残り12人』…………とうとうあいつも悪運尽きたか……………ん？」

メールを見ている間に、小町メンバーの誰かを発見。

亜美

「あ、ピピン板橋だ！」

冬馬

「お前までそれを言うか！」

亜美

「ん？またいおりんとアレやりたいの？」

冬馬

「頼むからそれだけはマジ勘弁してくれ……………」

とりあえず亜美を外へ連れ出す事にした。

涼

「どこですか？」

さやか

「私もファンなんです！出て来て下さーい！」

律子

「亜美？あずささん？」

残るあずさを探して美術館内を歩き回るこの三人。

残り時間 52..00

賞金 ￥1224000

美術館封鎖まであと2分。

美術館の中に閉じ込められれば、30体のハンターの餌食だ。

涼

「あれは！あずささん！」

あずさ

「あら、涼君」

そんな中、あずさを見つけた涼。

あずさ

「……………」

涼

「どうしたんですか？」

あずさ

「さっき涼君に似てる白いフードの子が私達をここに連れて来たのよ……………」

涼

「僕に似た……………いやまて？　そういえば僕が逃げ切ったやつがテレビであった時、『グレイト・エスケーパー計画』っていうのとか千早さんや雪歩さんのクローンが出て来たり……………まさか僕のクローン！？」

あずさ

「どうしたの？」

涼

「あ、いえ……………それじゃ、外出ましようか」

あずさ

「はーい」↑涼とは真逆の方向へ歩き出す

涼

「あずささーん！　そっちじゃない！」

残り時間 51・00

賞金 ￥1242000

冬馬

「脱出成功だぜ」

亜美

「レッツゴー!」

律子

「もう美術館にハンター来るまで時間ないわね」

亜美を連れた冬馬と律子が別々の入口から美術館を脱出。

さやか

「どこ?」

涼

「早く早く！」

あずさ

「ちょっと待って……………」

まだ脱出できていない涼とさやか。

そして……………

涼

「ギリギリだった……………」

封鎖直前で涼は美術館からの脱出に成功した。

……………

一方、月村達は……………

残り時間 50..00
賞金 ¥1260000

月村

「時間だな……」

ゲーム残り50分になったと同時に月村が端末を操作すると、美術館の扉が動き出し、封鎖された。

さらに、美術館のある一室にいつの間にか送り込まれていた30体のハンターが一斉に放出され、美術館内に残り残された美樹さやかの確保へと向かう。

.....

さやか

「え………? 嘘!？」

さやかも自分が閉じ込められた事に気づき、慌て始める。

さやか

「どうすりゃいいのよこれ？ハンター30体来るんでしょ！？残り50分の中で頑張れって事〜！？」

そして、さやかにハンター30体の恐怖が迫る。

ハンター×5

「！」「！」「！」「！」「！」

さやか

「ぎゃ〜！」

大量のハンターに見つかり、恐怖に染まった表情で逃げ始めるさやか。

ハンター×3

「！」「！」「！」

ハンター×2

「！」「！」

さやか

「うわっ！ いやー！ ぎゃあー！ ちょっと待ってー！ ヘルプ！ ヘルプミ！」

ハンターは次々とさやかを発見し、容赦なく追い詰める。

さやか

「うう………時間が来てるのに全然気づかなかったよ………」

そしてさらに正面からハンターが迫り、さやかは逃げ場は完全に失った………

さやか

「あたしって、ほんとバカ………」

ハンター×20

「LOCK ON SAYAKA」

ドドド

[illegible]

さやか

「ぎゃあああああああああああああああああああああ
あああああああああ………」

「美樹さやか 確保 残り11人」

残り時間
49..18

賞金 ¥127,2600

伊織

「これに指をやればいいのね？」

まどか

「はい！」

同じ頃、まどかは伊織を牢獄前の指紋認証装置に連れて行き、指紋を認証させていた。

ピ、ピ、ピ、ピ、ピ―

まどか

「やりました！」

ハルヒ

「へえ、カワイイ顔して結構度胸あるじゃないの」

キュウベえ

「そりゃそうさ。僕らのまどかだからね」

古泉

「僕らの？」

なのは

「まあでも、まだ二人居るからね……」

ピリリッピリリッ

まどか

「あ、確保情報………えーと………！さやかちやあああああああ
あああん！」

マミ

「あ、ホントだ！美樹さん確保だって！」

杏子

「さやかーーーー！」

スバル

「『美術館内で美樹さやか確保』……………30体のハンターにやられちゃったんだ……………」

涼

「あとちよつとで同じ目に逢う所だった……………」

その時……………

冬馬

「よっしや着いたぜ〜！」

亜美を連れた冬馬が牢獄へ到着。

まどか

「冬馬さん、早く〜！」

冬馬

「分かった分かった！」

亜美の指紋を認証させ、残りはあずさ一人となった。

まどか

「後でサイン二枚お願いします！ママとさやかちゃんがジュピターのファンなんです！」

冬馬

「別にいいけど、今ここで言う事か!？」

残り時間 47..00

賞金 ¥1314000

涼

「こっちです！」

あずさ

「はいはい」

涼もあずさを牢獄へ連れて行こうと急ぐ。

しかし、背後にハンター…………

ハンター

「！」

涼

「うっそおお!?」

あずさを置いてハンターから逃げる。

ハンター

「？」

ハンターに気づいたのが早かったおかげで、うまく撒いたようだ。

だが…………

涼

「あれ！？あずささん？」

逃げるのに夢中であずさを見失ってしまった。

そして……

残り時間 45..10

賞金 ¥1347000

9

8

7

6

あずさを牢獄へ連れて行く事ができないまま、ミッション終了の時間を迎えた。

賞金	残り時間
¥ 900000	45.00

1

2

3

4

5

ピリリッピリリッ

はやて

「メールや……『ミッション失敗』やて!？」

律子

「『天ヶ瀬冬馬、鹿目まどかの活躍により、三人中二人の指紋認証に成功』」

エリオ

「『これにより全員の賞金が3分の2となり、単価は1秒200円に減額された』……うわ、僕も行けばよかった!」

マミ

「『なお、自首者の獲得賞金も同様に3分の2に減額される』だって……」

杏子

「嘘だろ!？」

マミ

「ホントよ?」

ハルヒ

「ざまあみろってのよ!」

涼

「後で冬馬さんとまどかちゃんに謝りに行こうかな……」

ミッション失敗により、全員の賞金は残り45分の時点から3分の2に減額された。

賞金単価も1秒200円に減額され、逃げ切れば賞金は144万円となる。

但し、ハンターに捕まれば、賞金は0。

ついでに自首した杏子の賞金も減額され、獲得賞金は63万8800円となった。

◇牢獄DEトーク◇

マミ

「美樹さんが戻って来たわ！」

ミッション終了からおおよそ1分後、ボロボロのさやかが牢獄へ帰還。

さやか

「死ぬかと思った……………」

マミ

「よしよし……………」

キュウベえ

「30体のハンターってどんな感じだった？」

さやか

「そりゃ恐かったに決まってるでしょ！どこからでもゾロゾロ出て来て本当に恐かったよ！」

ハルヒ

「うわぁ……………さすがのあたしも引くわ……………」

古泉

「確かに、あんなのに囲まれたら一般人なら怖いでしょうね」

キャロ

「一般人じゃなくてもあんな黒い服の人に追いかけられたら誰だつて恐いですよ……………」

千早

「ええ。1体だけでも恐ろしいのに……………」

みくる

(ブルブルガタガタ)

さやか

「『リアル鬼ごっこ』の実写版あったでしょ？その1シーンみたいに囲まれた時は本当にあたし死ぬかもって思ったよ……………」

なのは

「あゝ、見た事ある」

ティアナ

「あたしは小説で」

絵理

「私も？」

ほむら

「まどかがハードカバーのその本を立ち読みして震えてるのを見た事があるわ」

さやか

「ストーカー！」

春香

「ただいま」

ハルヒ

「あ、お帰り。どこ行ってたのよ？」

春香

「財布持って来てたから途中でジュース買ってた」

キャロ

「いいのかなあ？勝手に飲み物買って？」

さやか

「それより、杏子ー！」

杏子

「ん……………！？」

さやか

「予想はしてたけど、何で自首したのよ……………！」↑『人魚の魔女』
のような形のオーラを纏う

杏子

「そりゃたまにはあたしも大金欲しいし……………つーかなんか出てるぞ!？」

さやか

「このゲームは逃げ切る事に意義があるのよ！汗水流して必死にな
ってハンターから逃げるから、名誉も賞金もあるんだよー！」

杏子

「わ、分かったからそのどっかで見たようなオーラをしまえー！」

長門

（ギリシャの学者についての本を読んでいる）

.....

一方、月村達は……

アイリス

「三人は無事に外へ脱出したようです」

月村

「そうか。さて……」

美術館前に居る三人に近づく影。

月村

「まさかお前が主犯だったとはな……」

月村達の前に現れた、グレイト・エスケーパー計画の主犯と思われる一人の男。

逃走劇と計画阻止のための戦いはクライマックスを迎える。

残り時間 42..58

賞金 ￥ 923600

―残る逃走者達―

萩原雪歩 秋月律子 日高愛 秋月涼 天ヶ瀬冬馬 鹿目まどか
キョン フェイト・T・ハラウオン 八神はやて スバル・ナカジ
マ エリオ・モンディアル

――残り11人――

迫る二つのタイムリミット（後書き）

次回、遂にグレイト・エスケーパー計画の全貌が明らかに！

そして、賞金減額に落ち込む暇もなく、逃走者達に最大のピンチが訪れる！

グレイト・エスケーパー計画の全貌（前書き）

遂に明かされる、二人の助手の正体とグレイト・エスケーパー計画の全貌。

そして、逃走者に最大のピンチが訪れる！

グレイト・エスケーパー計画の全貌

ゲームが終盤に近づこうとした時、月村達の前にそれは現れた。

過去の逃走成功者のクローンを使った『グレイト・エスケーパー計画』の首謀者。

月村と二人の助手は緊張に包まれる。

月村

「まさかお前が首謀者だとはな……葉月シン！」

葉月シン

「同期を覚えてくれているとは、嬉しいじゃないか」

フェニス

「知ってるのですか？」

月村

「彼は葉月シン。私と同じ頃にクロノス社で働き始めた男だ」

葉月

「そうだ。俺と月村はかつてクロノス社で同じ科学者として互いに

研究で競い合っていた。ハンターの開発がお前に任されてからは合う機会もほとんどなかったがな」

アイリス

「そんなあなたがクローンを使って何をするつもりですか！」

葉月

「いいだろう、教えてやる。もう隠す必要もないからな」

葉月の口から、計画の全貌が語られる。

葉月

「俺達の時代において人類が住んでいる月には多くのコロニーがあるのは知っているだろう？そして中にはクロノス社に対して好意的でない所も少なからずある」

月村

「確かにクロノス社は我々の社会に与える影響が大きいと言えるが、必ずしも全ての人々に支持されている訳ではない……………」

葉月

「そうだ。俺の目的は、我々という存在のありがたみを知らない馬鹿な奴らを屈服させ、月の全てをクロノス社が支配する世界を作る事だ！」

月の全てを支配する―その言葉に三人は耳を疑った。

葉月はクロノス社に所属する一人の人間でしかないのに、そんな事ができるのかと。

だが、月村はあのファイルの内容を思い出す。

月村

「あの大量のクローンはそのために……………」

葉月

「ご名答。我々が作り上げた歴代の逃走成功者のクローンを兵士として使い、我々に仇なす者を抹殺する……………」

アイリス

「それが『グレイト・エスケーパー』計画……………」

葉月

「その通りだ。だが……………」

三人

「？」

葉月

「実を言うと、この計画はお前達に知られる前に既に失敗に終わっているんだよな、これが」

月村

「え？」

葉月

「コロニーへ攻撃を仕掛けようとして返り討ちにあったんだよ。この時代からずっと続く『水瀬グループ』にな」

フェニス

「水瀬グループ……………水瀬伊織の……………まさか!？」

この時、三人は気づいた。

葉月の目的はこの時代において水瀬グループを潰し、未来を変える事だという事に。

葉月

「フツ、そういう事だ。そのためには邪魔物をどかさなければな。逃走者も……………お前達も!」

バチバチバチッ!

三人

「……………!!」

葉月はいきなりスタンロッドを取り出して三人に殴り掛かり、それを受けた三人は電気で身体が痺れながら倒れ込む。

葉月

「この時代で水瀬グループの連中を皆殺しにしてしまえば、俺達の時代に水瀬グループは存在しなかった事になる。だが、お前達がさっさとゲームを終わらせてこの時代から退散してくれないといつまで経っても実行できない。そこでだ……」

葉月はスタンロッドを構え、封鎖された美術館の扉の前に立つ。

葉月

「ふんっ！」

ガシャーン！

スタンロッドを扉に叩きつけると扉のロックが解除され、美術館の中を歩き回っていた30体のハンターの内の10体が開いた扉の外へ放たれた。

葉月

「これでゲーム終了は確実だな。R8、こいつらを見張っている」

葉月の背後から四人のクローン兵を引き連れてやって来たのは、あ

の時に竜宮小町メンバーを美術館へ連れていったあの少年。

クローン兵がマシンガンを構えると同時に少年は白いフードを脱ぎ、秋月涼にそっくりな素顔を見せた。

月村

「やはり作られていたか。前回の逃走成功者、秋月涼のクローン……」

R8

「……………」

葉月

「さて、俺は色々と準備をしないとなんでね。そこで大人しく逃走者達が全員捕まるのを待っているがいい」

そう言い残し、葉月は立ち去った。

……………

残り時間 40:00

賞金 ¥ 960000

前回 開始時 13人
確保 2人

残る逃走者達 11人

さやか

「な、なんかやばいんじゃないの!？」

みくる

「ハンターが……ハンターがいつぱいですう……」

ハンター放出の瞬間は牢獄のモニターに映し出されていた。

なのは

「何でハンターが!？というかあの人は誰!？」

キュウベえ

「そういえば、前にまどかと一緒に以前の逃走中をテレビで見てたら、最後に『グレイト・エスケーパー計画』っていう言葉が出て来たような」

千早

「それより、このゲームはどうなってしまうの?」

マミ

「一応ここに携帯があるからメールで伝えられる筈よ。前にも牢獄からメールがあった時もあるし」

マミはすぐさまメールで残存の逃走者達にこの事態を伝える。

ピリリッピリリッ

まどか

「またミッションかな……あれ？マミさんからだ」

キヨン

「『美術館に不審な人物が現れ、中のハンターが』……………」

スバル

「『中のハンターが10体ぐらい外に出されたみたい』、って、ちよつと…………ええ！？ハンター10体増えたって事！？」

涼

「『牢獄の私達には伝える事しかできないけど、気をつけて』…………」

…ぎゃおおおおおおおん！酷過ぎるよー！」

葉月によって美術館から流出した10体のハンター。

逃走者11人に対して、現在のハンターの数15体。

雪歩

「あわわわわわ……………」

15体のハンターに怯える、アイリスのオリジナル。

フェイト

「どどど、どうしよう……………ハンター15体なんて絶対無理だよ………」

同じく震え上がる、金色の死神(?)……………

三人の逃走者を巻き込んできた彼女に、さっそく大量ハンターの恐怖が迫る……………

ハンター

「！」

フェイト

「いやあゝ！」

1体のハンターがその姿を捉え、確保へと向かう。

しかし、逃げた先で………

雪歩

「わああゝ！」

ハンター

「LOCK ON YUKIHO」

フェイトの声を聞いて思わず飛び出した雪歩がハンターに見つかり、標的にされる。

雪歩は逃げようとしたが………

ハンター×2

「！」 「！」

向いた先には、2体のハンター……………

雪歩

「ひゃあああああ！」

ポンッ

「萩原雪歩 確保 残り10人」

残り時間 38..46

賞金 ¥ 974800

雪歩

「ブクブクブク……………（泡を吹いて気絶）」

フェイト

「ああ……………また巻き込んだじゃった……………」

またもや罪悪感に沈むフェイト。

だがその時、また別のハンターが……………

ハンター

「LOCK ON FATE」

フェイト

「きゃあゝ!?!」

ポント

「フェイト・T・ハラウオン 確保 残り9人」

残り時間 38..31

賞金 ¥ 977800

フェイト

「そして私も捕まった……」

泣きっ面に蜂とは、まさにこの事だ……

しょうがないのでフェイトは気絶した雪歩を背負って牢獄へ向かった。

冬馬

「マズイな……」

はやて

「こんなどうすればいいんやろ……」

律子

「厳しい……」

.....

R 8

「やれやれ……………」

月村

「どういうつもりだ？ 君は葉月に協力していたんじゃないのか？」

同じ頃、三人を見張っていた筈の R 8 によって追い詰められていた月村達は助けられていた。
周りのクローン兵は既に気絶している。

R 8

「どういうつもりも何も、僕は最初から計画阻止のために生み出されたのさ」

月村

「何？」

R 8

「あなたがフェニスやアイリスと出会った研究所は元々はクローンの研究をしていたとある博士のもので、二人も博士によって計画阻止のために作られたんだ」

フェニス

「私達が？」

R 8

「…………かつて葉月に頼まれて逃走成功者達のクローンを作っていたその博士は、その目的を知ったために葉月に命を奪われた。しかし、それを悟っていた博士は計画を阻止するためにフェニスとアイリス、そして僕を作っていた」

アイリス

「計画って、グレイト・エスケーパー計画の事？」

R 8

「その通り。博士は本来ならば僕達を感情のない兵器にするために身体に取り付けた装置に計画のファイルのパスワードをインプットした」

月村

「あの紋章は操り人形にするため、フェニスがパスワードを知っていたのはこのためか……………」

月村の横でフェニスとアイリスは服の胸元を開き、埋め込まれている紋章を見た。

その後、R 8はさらに話を続ける。

R 8

「そして僕は内部から計画を破壊するために葉月に従うフリをして

いたのさ。しかし、フェニスとアイリスを最初に見つけたのが月村サトシ、あなただったのは博士にとって嬉しい誤算だよ」

フェニス

「ええ。私達にとっても……ね、アイリス？」

アイリス

「うん！」

月村

「……………計画を阻止する理由が増えたようだ」

月村と三人のクローン達は改めてグレイト・エスケーパー計画を阻止する決意を固めた。

フェニスとアイリスは自分達に人間としての居場所をくれた月村のために。

R8は自分に与えられた使命を全うするために。

月村はコロニーでゲームを楽しみにしている人々や、自分に手を貸してくれる者達のために。

フェニス

「早く葉月を捕まえましょう！恐らく奴はゲーム終了と同時に水瀬伊織の抹殺を実行するつもりです」

月村

「待て、フェニス。確かに計画は一刻も早く阻止しなければならぬが、ゲームマスターとしての仕事も忘れる訳にはいかない」

アイリス

「そうおっしゃると思って、既に用意はしてあります！」

そう言うアイリスは月村から端末を受け取って操作する。

すると駐車場の一台のトラックの荷台が開き、タンクに繋がったマスケット銃のような物が転送された。

さらに、エリア内の15体のハンターの内の2体のスーツの胸ポケットに、ハンターを模したマークのカードが転送される。

これが逃走者達と牢獄組にチャンスを与える！

.....

残り時間 35..00

賞金 ¥1020000

ピリリッピリリッ

愛

「メールですなー！」

まどか

「『美術館から10体のハンターが流出し、ハンターの数合計15体となった』……さっきのマミさんのメールか……」

エリオ

「『また、駐車場エリアにハンターを一度だけ停止させる事ができる冷凍銃を用意した』……冷凍銃？」

マミ

「『さらに、15体の内2体のハンターが持っている復活カードを牢獄へ届ければ、逃走者を一人ずつ復活させる事ができる』！」

ハルヒ

「復活ですってー！？」

絵理

「復活したい？」

春香

「おい！」

なのは

「誰か助けて〜！」

ほむら

「まどか〜！」

さやか

「おい……………」

逃走者と牢獄組に与えられたチャンス。

駐車場のトラックに用意された冷凍銃。

これをハンターに噴射すれば、1丁につき1体のハンターを永久に停止させる事ができる。

さらに、15体の内2体のハンターは復活カードを持っており、これを牢獄へ届けば牢獄の逃走者の中から1人を復活させる事ができる。

但し、ハンターに近づけば当然確保されるので、復活カードを手に入れるには冷凍銃でハンターを停止させなければならない。

復活した逃走者も逃走に成功すれば賞金獲得となるが、その場合は

復活させた逃走者が賞金の半分を無条件で獲得する。

なお、用意されている冷凍銃は全部で10丁で、ゲーム残り20分に配布は終了となる。

はやて

「ハンター減るのはええけど、冷凍銃をゲットするまでが大変やな……」

冬馬

「ハイルスクハイリターンってのは嫌いじゃないんだがな……」

まどか

「……行く！ハンターはやつつけておきたいし、捕まったみんなも待ってるから！」

逃走者達が動くかどうか迷っている中、まどかは危険を顧みずに冷凍銃を取りに向かう。

しかし、エリア内には15体のハンター。見つからずに辿り着くのは至難の技。

果たして、何体のハンターを停止させる事ができるのか。
また、牢獄の逃走者を復活させる事はできるのか。

今、終盤の攻防が始まる。

残り時間 33..48

賞金 ¥1034400

――残る逃走者達――

秋月律子 日高愛 秋月涼 天ヶ瀬冬馬 鹿目まどか キョン 八
神はやて スバル・ナカジマ エリオ・モンディアル

――残り9人――

グレイト・エスケーパー計画の全貌（後書き）

絶体絶命の危機の中に差し込んだ光。

逃走成功への希望を繋ぐ事はできるのか!?

そして次回の本家逃走中が12月20日に放送されます！
絶体見ましょう！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5037w/>

逃走中 Mix M@ster! ～グレイト・エスケーパー計画を阻止せよ!～

2011年12月4日18時47分発行